

七飯町観光振興計画 2015-2025



平成27年7月

「ひと・自然・食」が魅力的なまちづくりの実現に向けて



私たちのまち七飯町は、秀峰「北海道駒ヶ岳」「大沼」「小沼」「じゅんさい沼」と126の小島が織りなす雄大かつ繊細な景観を誇り、道南唯一の国定公園である「大沼国定公園」を擁し、北海道リゾート発祥の町として古くより多くの観光客に訪れていただいております。また、「大沼」は大正5年に「新日本三景」に選定されたほか、名曲「千の風になって」の生誕地として、さらには、平成24年7月、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」いわゆるラムサール条約登録湿地に登録されるなど、その優れた景観や自然環境は、国内外において高く評価されております。

また、我がまちは、西洋農法をいち早く取り入れ、日本における近代農業の礎を築いた歴史を持ち、男爵いもや西洋りんご、チーズなど数多くの農畜産物の発祥地であるとともに、現在も優れた地場産品を生産するなど、食資源にも恵まれております。

私たちは、このような七飯町固有の歴史や資源を愛し、誇りを持つとともに、一層の磨きをかけて活用し、「ひと・自然・食」が魅力的なまちづくりを進めていくことが重要であり、我がまちの大きな課題となっております。

現在、社会問題ともなっている少子・高齢化により、地域経済の縮小や地域の衰退が懸念され、このような状況を打破するためにも観光振興による交流人口の増加を図ることが、必要不可欠となっております。

こうした状況のなかで、平成28年3月には、七飯町に隣接する北斗市において「北海道新幹線新函館北斗駅」の開業を予定しており、七飯町の交流人口や人の流れに大きな変化が予測されることから、我がまちの観光や産業にとって大きな転換期を迎えるとともに千載一遇の好機を迎えております。

一方、多様化したニーズや今後増加が見込まれる外国人観光客の受け入れ体制の整備、二次交通網の整備など多くの課題があるとともに、国を挙げた観光立国の実現に向けた取り組みを進めるなかで、地域間の競争が激化することが予想されることから、時代に即した観光振興策をいかに進めるかが大きな課題となっております。

『七飯町観光振興計画』は、今後11年間の観光振興の指針として策定され、こうした課題一つ一つの検証・施策を通し、七飯町民、美しい自然や景観、豊富な食材など、七飯町が持つ数多くの「観光資源」を活用・整備し、新たな観光スポットの創設、観光ルートの開発、既存資源の掘り起しや磨き上げを図ることで『ひと・自然・食』が真に魅力的なまちづくりを目指すとともに、訪れる観光客だけではなく、私たち七飯町民にとっても『住みたいまち・住み続けたいまち七飯町』の実現を目指すものです。

この計画を多くの皆様にご理解いただき、町を挙げて温かく観光客をおもてなしする観光のまちづくりを進めてまいりますので、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

平成27年 7月 1日

七飯町長 中宮 安一

目 次

【 序 章 】『ひと・自然・食』が魅力的なまちづくり	1
1. 計画の趣旨	1
2. 計画の目的	1
3. 計画の期間	2
【 第 1 章 】七飯町の観光の動向	3
1. 観光入込客数の推移	3
2. 宿泊客数の推移	5
3. 観光地点の入込動向	7
【 第 2 章 】七飯町の観光の課題	9
1. アンケート調査で見た七飯町の観光の課題	9
2. 観光入込客数の推移からみた七飯町の観光の課題	13
3. 宿泊客数の推移からみた七飯町の観光の課題	15
4. 外国人宿泊客数の推移からみた七飯町の観光の課題	17
5. 観光地点の入込動向からみた七飯町の観光の課題	21
【 第 3 章 】七飯町の観光の諸課題への対策	23
1. 町の認知度不足への対策	25
2. 滞在型観光の促進に向けた対策	26
3. 外国人観光客の受入環境の整備に向けた対策	28
4. 通年型観光の促進に向けた対策	29
5. 観光による経済効果の全町への波及に向けた対策	31
【 第 4 章 】七飯町観光振興計画における目標設定	33
本計画における各種施策の目標設定について	33
1. 町の認知度不足に関する課題への目標設定	33
2. 滞在型観光の促進に向けた目標設定	34
3. 外国人観光客の受入環境の整備に向けた目標設定	35
4. 通年型観光の促進に向けた目標設定	36
5. 観光による経済効果の全町への波及に向けた目標設定	37

1. 計画の趣旨

少子・高齢化、高度情報化、グローバル化など、わが国の社会環境や情勢が大きく変化するとともに、人々の価値観やライフスタイルが多様化しており、こうした状況の中で観光に求められる価値やニーズも多様化しています。

また、政府は、観光を『わが国の力強い経済を取り戻すための極めて重要な成長分野』と位置付け『観光立国』の実現に向け様々な取り組みを実施しており、平成25年における訪日外国人旅行者数は、史上初の1,000万人を達成しました。

こうした状況のなかで、平成28年3月には、七飯町に隣接する北斗市において北海道新幹線新函館北斗駅の開業を予定しており、これまでは函館空港やJR函館駅が道南の玄関口として国内外の多くの観光客を受け入れてきましたが、今後この玄関口が、北海道新幹線新函館北斗駅へシフトすることが予想され、これに伴い、七飯町の交流人口や人の流れの大きな変化が予測されることから、我がまちの観光や産業は大きな転換期を迎えるとともに千載一遇の好機を迎えております。

一方、現在の七飯町の観光は、多様化したニーズや外国人観光客への対応、今後増加が見込まれる観光客の受け入れ体制や二次交通網の整備、観光資源の掘り起しや磨き上げなど多くの課題があり、こうした課題の検証や対策が求められております。

『七飯町観光振興計画』は、こうした課題一つ一つの検証・対策を通して、七飯町民、美しい自然や景観、豊富な食材など、七飯町が持つ数多くの「観光資源」を活用・整備し、新たな観光スポットの創設、観光ルートの開発、既存資源の掘り起しや磨き上げを図るとともに『ひと・自然・食』が真に魅力的なまちづくりを目指します。

2. 計画の目的

観光振興という視点で七飯町民・観光関係事業者・一次産業者・行政など、多様な担い手が協働してまちづくりに取り組むことにより、七飯町の観光はもちろんのこと、まち全体の発展に寄与することで地域のすべての人々に恩恵をもたらすものです。七飯町を訪れる観光客が七飯町のひとや自然、食に触れることで七飯町のファンとなりリピーターになってもらうことは、事業者の利益をもたらすばかりではなく、町民の地域への愛着、誇りの醸成や新たな産業の創出に伴う雇用機会の確保、町にとっては収入の増加による町民サービスの拡大につながるなど、まち全体に好循環が形成されます。

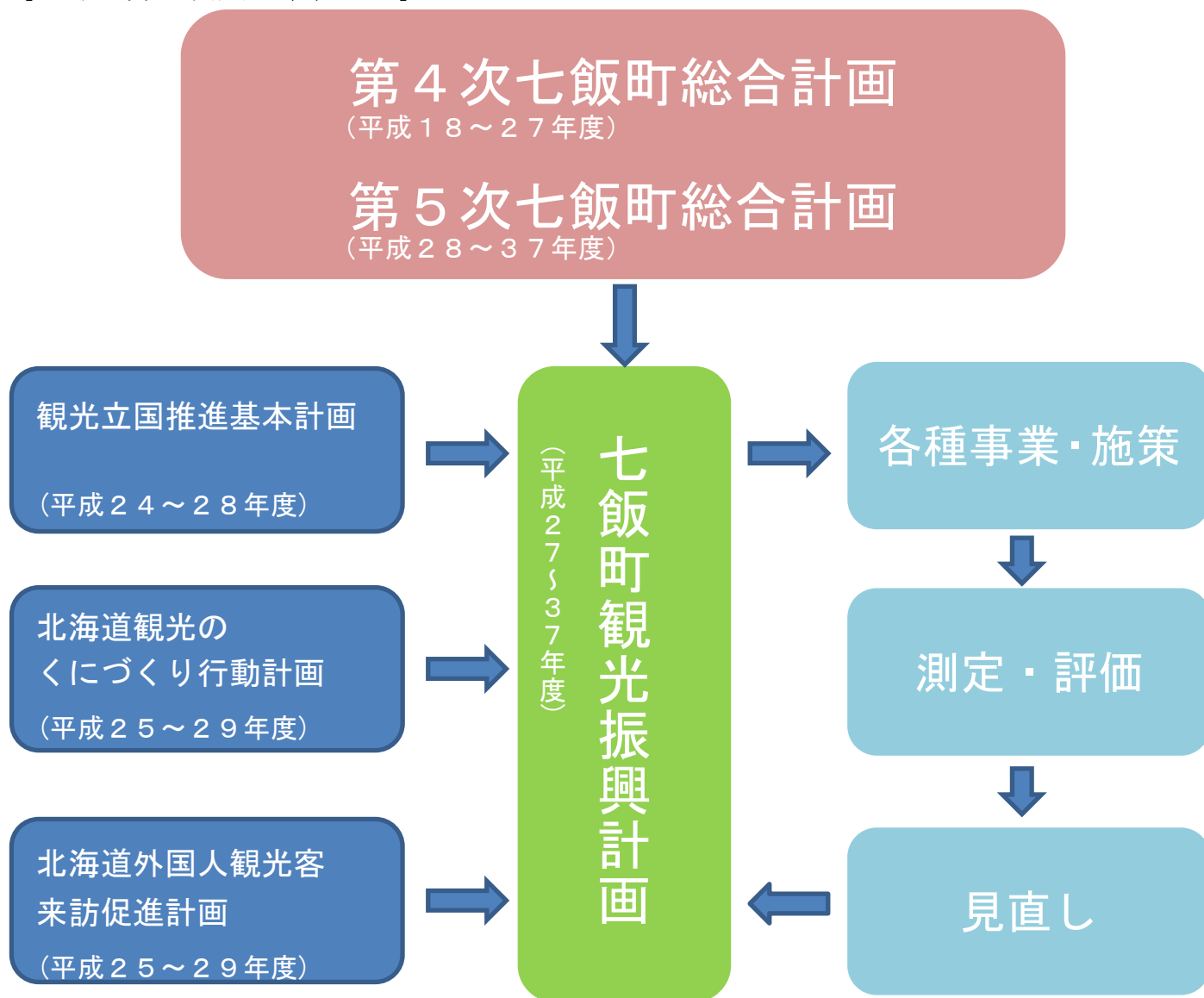
このような協働のサイクルを活発化させるためには『協働は、地域のすべての人々のため』という共通認識に立ち、全町を挙げて観光に取り組むことが必要不可欠です。

北海道新幹線開業というまたと無い好機を迎えた今、開業効果を最大限に享受するためにも、観光によるまちづくりに協働で取り組み、我がまちを持続的に発展させることを本計画の目的としています。

3. 計画の期間

本計画は、平成27年度から平成37年度までの11年間を計画期間とし、計画策定後は、進捗状況の把握に努めるとともに、観光を取り巻く社会的情勢の変化などを踏まえ、必要に応じて計画内容の見直しを行うこととします。

【 七飯町観光振興計画の位置付け 】

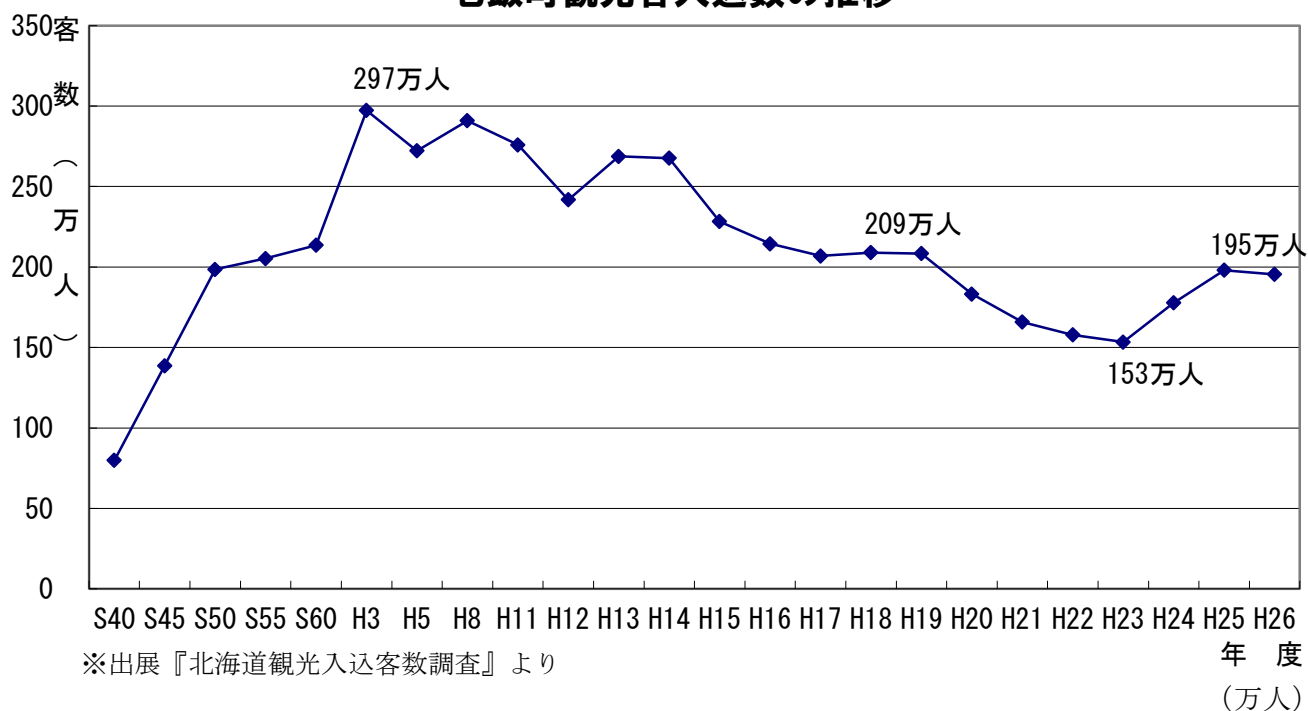


1. 観光入込客数の推移

七飯町の観光入込客数は、調査を開始した昭和40年度の798,914人より堅調に増加し、平成3年度には2,972,729人を記録しましたが、以降は緩やかに減少し、特に平成23年度においては、東日本大震災などの影響により直近10年間の最小値である1,534,033人にまで減少しました。

平成25年度における入込客数は1,980,641人、平成26年度は1,954,312人と平成23年度に比べそれぞれ平成25年度は446,608人増(+29.1%)、平成26年度は420,279人増(+27.4%)と回復傾向にあり、平成17年度～平成19年度の水準近くまで回復しておりますが、平成26年度においては調査開始時以来の最大値である平成3年度と比べ1,018,417人減(-34.3%)、過去10年間の最大値である平成18年度と比べても134,992人減(-6.5%)となっており、北海道新幹線の開業や今後予定されている様々な施策などの要素を加味しなかった場合の推移は、平成15年度から平成19年度までの水準である年間およそ210万人前後で推移するものとみられます。

七飯町観光客入込数の推移

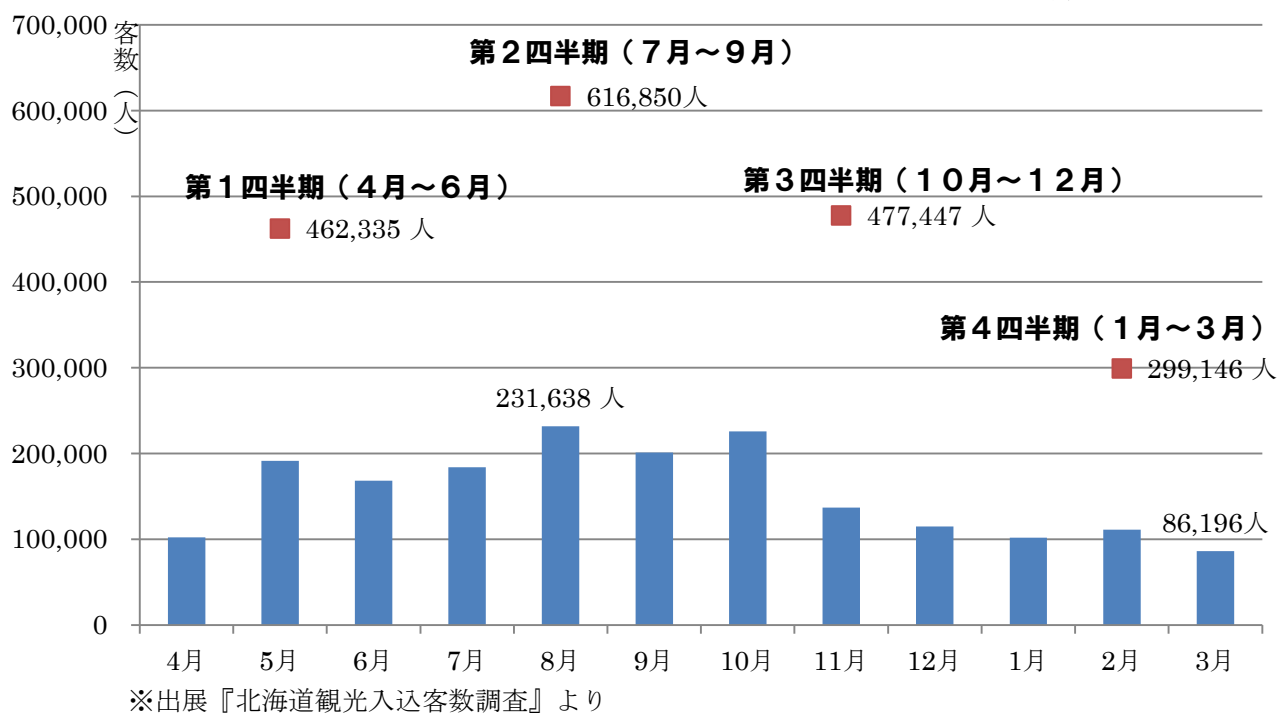


S40	S45	S50	S55	S60	H3	H5	H8	H11	H12	H13	H14
80	139	199	205	214	297	272	291	276	245	269	268
H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
228	214	207	209	208	183	166	158	153	178	198	195

この入込数を過去10年間における月別の平均値で見た場合、観光最盛期にあたる8月の231,638人が最も多くなった一方で、冬期間、特に3月が最も少ない86,196人となりました。

また、同じくこの入込客数を、過去10年間の四半期（4月～6月、7月～9月、10月～12月、1月～3月）別で見た場合は、第2四半期（7月～9月）の616,850人が年間入込客数の33.2%を占め最も多く、第4四半期（1月～3月）の299,146人が年間入込客数の16.1%と最も少ない結果となりました。

過去10年間の月別・四半期別の観光入込客数平均

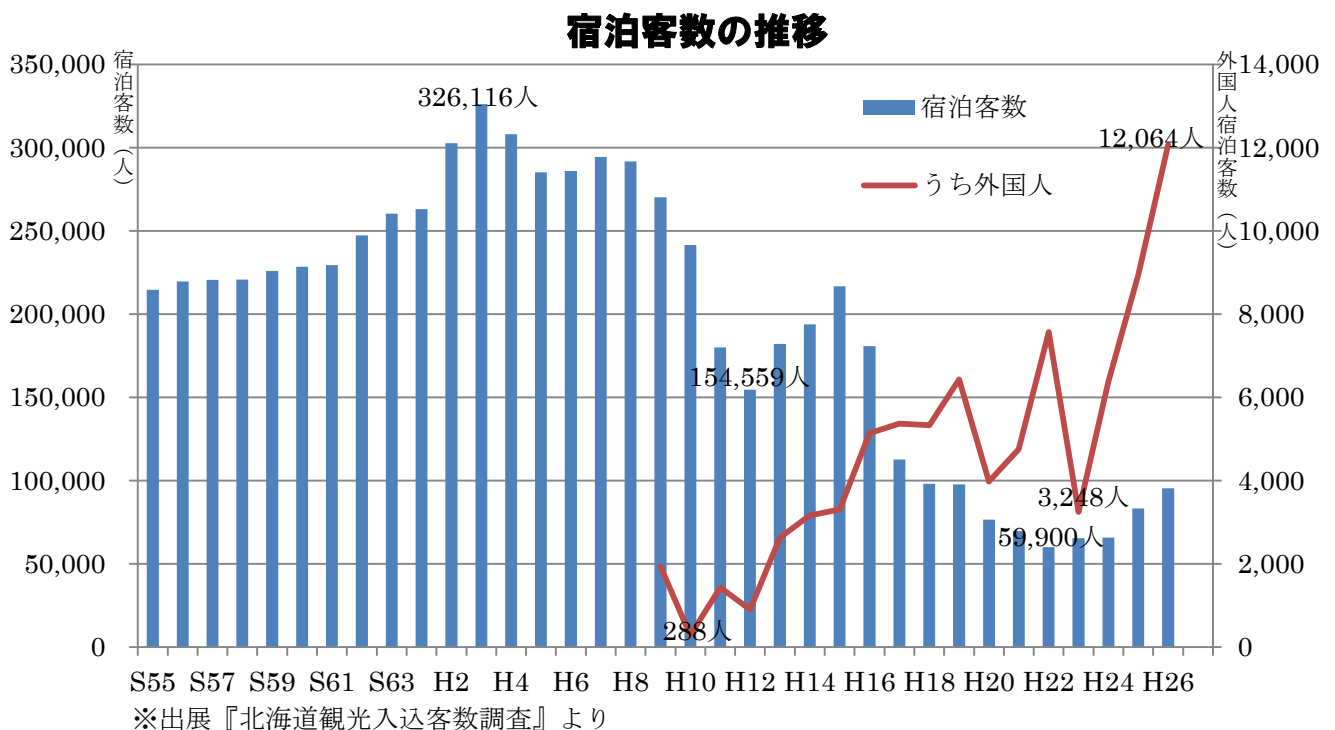


過去10年間の月別・四半期別の観光入込客数平均					
第1四半期			第2四半期		
462,335 人			616,850 人		
4月	5月	6月	7月	8月	9月
102,282 人	191,592 人	168,461 人	184,047 人	231,638 人	201,165 人
第3四半期			第4四半期		
477,447 人			299,146 人		
10月	11月	12月	1月	2月	3月
225,725 人	136,903 人	114,819 人	101,804 人	111,145 人	86,196 人

2. 宿泊客数の推移

七飯町の宿泊客数は観光入込客数と同様堅調に増加し、平成3年度に記録した326,116人以降は緩やかに減少し、平成11年度および平成12年度に激減、その後数年間は回復基調と増減を繰り返しながら推移していましたが、平成16年度には再び減少に転じ、特に平成22年度においては調査開始以来最小値である59,900人にまで減少しました。

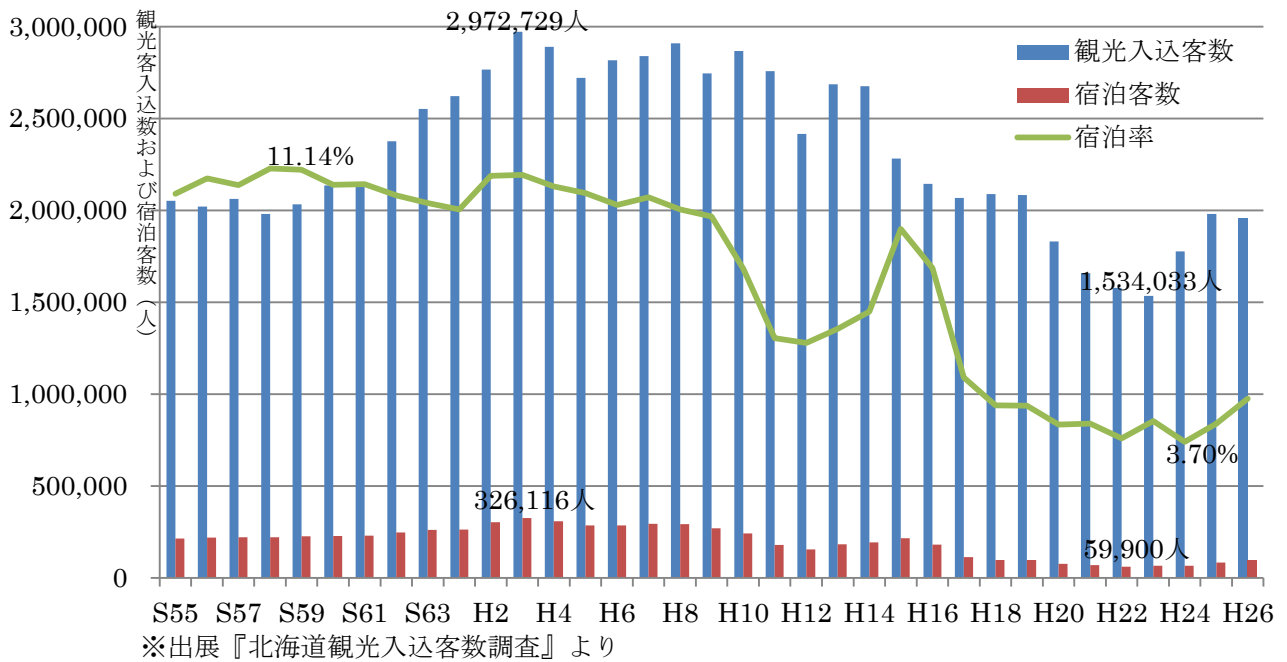
宿泊客数が減少する一方で、外国人宿泊客数は堅調に増加しており、平成23年度は東日本大震災の影響などにより3,663人に減少したものの、平成26年度においては調査開始以来最大値である12,064人にまで増加しております。わが国においては、平成25年における訪日外客数が初の1,000万人を突破し、翌平成26年は1,341万人と外国人観光客は大幅な増加傾向にあり、当町の外国人宿泊客や外国人観光客についても今後ますます増加するものと考えられます。



また、観光入込客数のうち、どれくらいの人数が町内に宿泊しているのかの割合を宿泊率として算出した場合の推移が次のグラフのとおり、最大値は昭和58年度の11.14%であり、最小値は平成24年度の3.70%となりました。

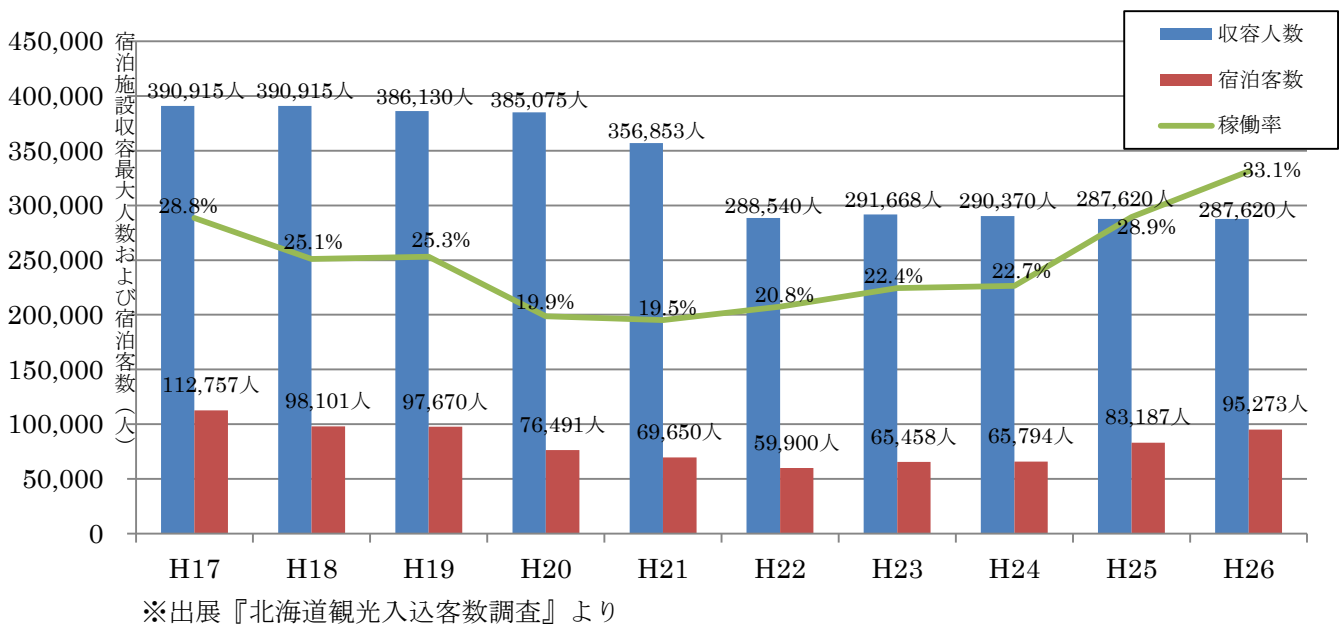
昭和58年度当時は、町に訪れた観光客の10人に1人以上が町内に宿泊しており、以降は概ね横ばいに推移していましたが、平成11年度にこの数値が激減し、一時は回復したものの、平成16年度以降より再び減少に転じ、現在は3%~4%程度にまで落ち込んでいることから、この時期を境に、当町への観光が滞在型から通過型に大きく転換したものと考えられます。

観光入込客数と宿泊客数でみた宿泊割合の推移



過去10年間における宿泊施設の収容人数および稼働率の推移は次のグラフのとおりとなり、特に稼働率（年間総収容人数のうちの年間宿泊客数）については、前述の宿泊客数や宿泊率と概ね連動する形で推移し、過去10年間における宿泊客数の最小値は平成22年度の59,900人、稼働率の最小値は平成21年度の19.5%となりました。

過去10年間の宿泊施設収容人数および稼働率の推移

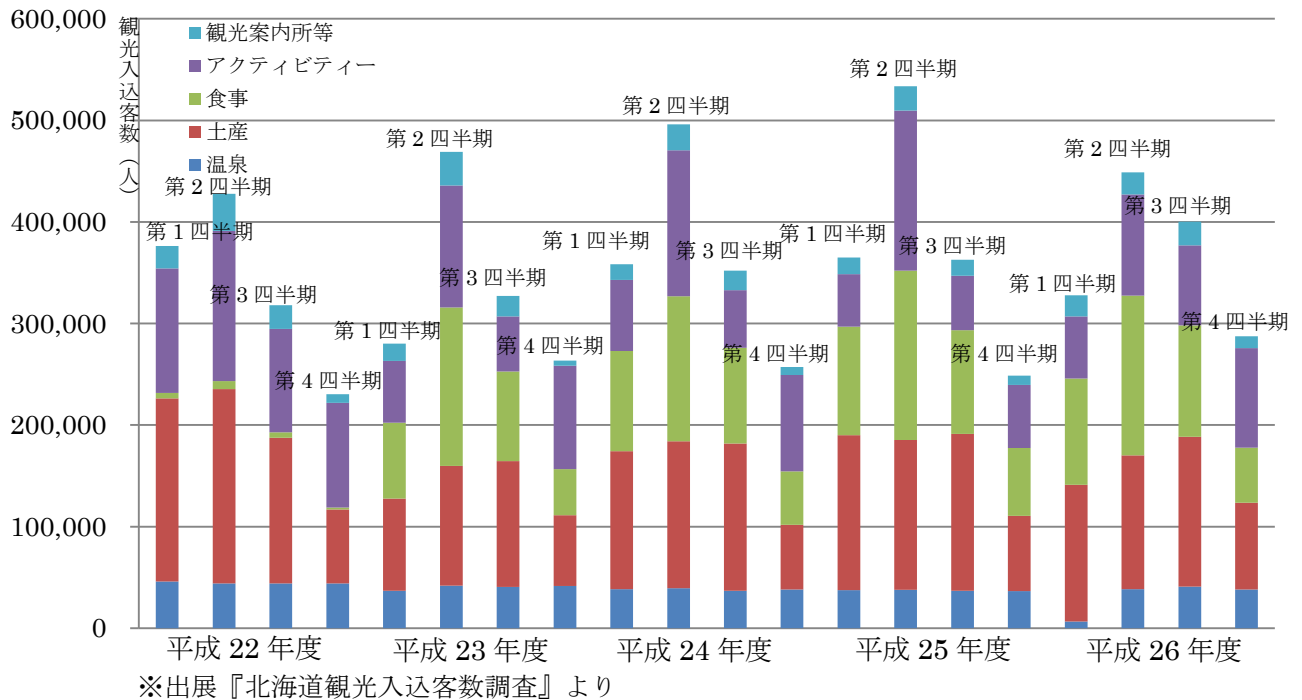


また、収容人数については、平成17年度の390,915人以降、宿泊施設の廃業や休業により減少したため、平成22年度から現在に至るまでの収容人数は、年間290,000人前後で推移しており、この収容人数の減少に伴い、宿泊客数や前述の宿泊率が低下しているものと考えられます。

3. 観光地点の入込動向

過去5年間における七飯町の観光入込客数のうち、駐車場への入込を除いた日帰施設への入込動向を土産・食事・アクティビティ・観光案内所等・温泉に分類し、各年度の四半期毎に集計した結果は次のグラフのとおりとなります。

過去5年間における日帰施設の入込動向



※第1四半期～第4四半期とは・・・第1四半期（4月～6月）・第2四半期（7月～9月）・第3四半期（10月～12月）・第4四半期（1月～3月）の期間を指します。

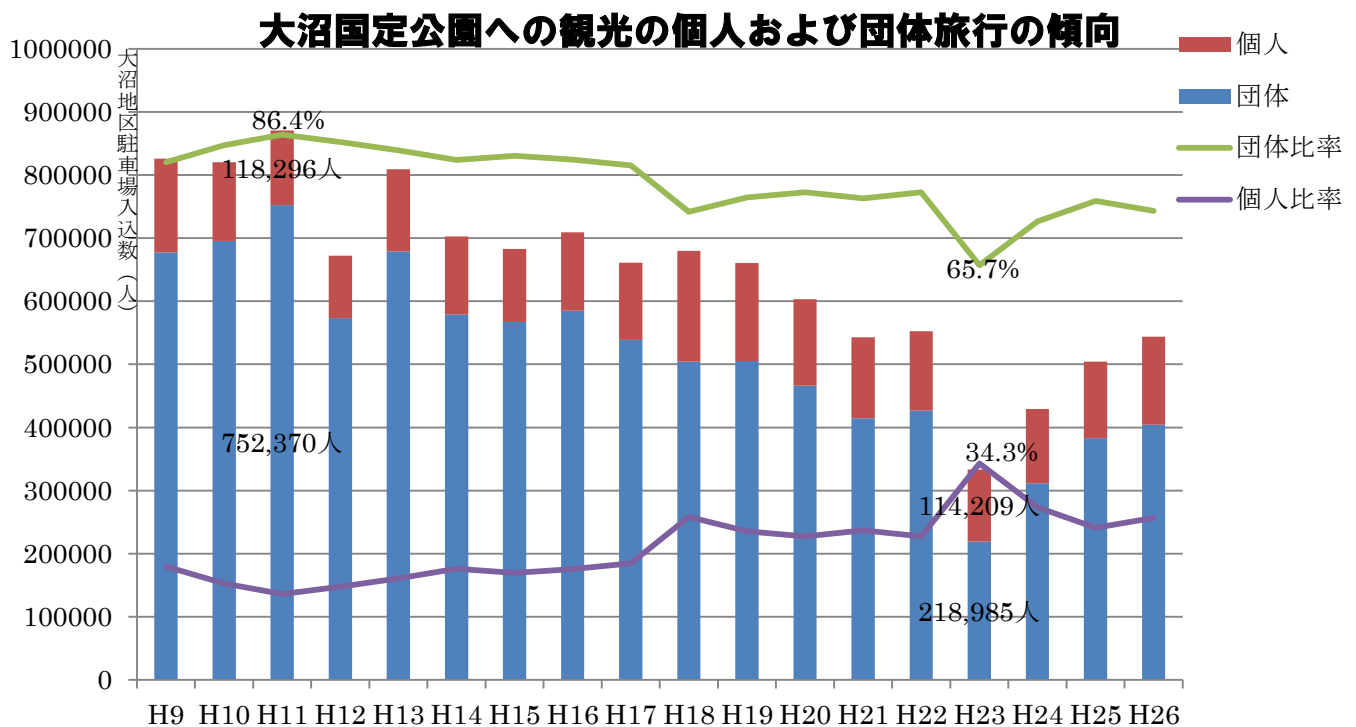
※日帰施設の入込動向は、観光入込客数調査における施設利用調査時に抽出した日帰施設につき大沼国際交流プラザなど3施設を「観光案内所等」として、遊覧船、カヌー、貸自転車等事業者10施設を「アクティビティ」として、レストラン、食堂など10施設を「食事」として、土産品等小売店3施設を「土産」として、日帰入浴施設4施設を「温泉」としてそれぞれ分類し、集計したものとなっております。

過去5年間における日帰施設入込客数の最大値及び最小値		
	最大値	最小値
観光案内所等	平成22年度 第2四半期 36,379人	平成23年度 第4四半期 5,201人
アクティビティ	平成25年度 第2四半期 157,836人	平成25年度 第1四半期 51,801人
食 事	平成25年度 第2四半期 166,600人	平成22年度 第4四半期 1,788人
土 産	平成22年度 第2四半期 191,225人	平成24年度 第4四半期 63,909人
温 泉	平成22年度 第1四半期 46,053人	平成26年度 第1四半期 6,727人

日帰施設への入込は、『1. 観光入込客数の推移』の四半期別の観光入込客数と同様に、概ね第2四半期が最大化し、第4四半期が最小化する傾向が顕著にみられ、過去5年間に おける入込総数としては、平成25年度第2四半期の533,483人が最も多く、平成22年度第4四半期の230,306人が最も少ない結果となりました。また、分類別入込客数についても、概ねこれに連動する傾向となっております。

なお、アクティビティーの入込数が第1四半期に最小となるのは、1月から3月の冬期間凍結する大沼湖上において、わかさぎ穴釣りやスノーモービルなどのアクティビティーが提供されるため、入込数が最小傾向となる第4四半期においても一定の集客が見込める一方、春先は遊覧船等の準備のため空白期間があるためであると推測されます。

また、当町への観光形態が団体旅行、個人旅行のいずれの傾向にあるかについて、現在、統計調査を行っている大沼地区の駐車場への入込のうち、大型バスやマイクロバスでの入込数を団体旅行として、乗用車や単車による入込数を個人旅行として推移をまとめ、グラフにしたものが次のとおりとなります。



※出展『北海道観光入込客数調査』より

七飯町への観光の個人旅行および団体旅行の傾向は、団体旅行による入込が依然半数以上を占めておりますが、年度により大きく増減している一方、個人旅行による入込数は安定的に推移しており、団体・個人比率についても、個人旅行による入込比率は概ね増加傾向にあることから、観光旅行の個人化傾向が表れ始めております。

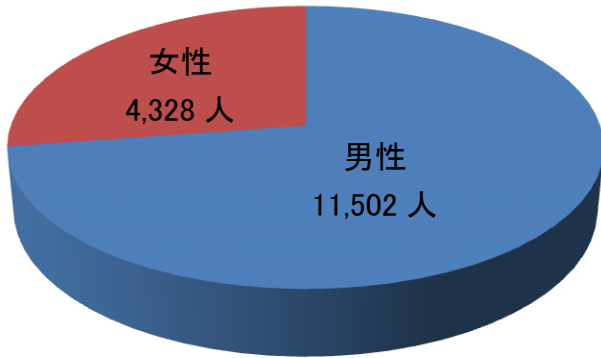
これは、観光客の旅行機会増加に伴う観光旅行に対するニーズの多様化や、カーナビゲーションの発達やインターネットの普及など高度な情報化により、個人で自由に旅行が楽しめる環境が整備されたためと考えられることから、こうした傾向は今後も続く、あるいは加速するものと考えられます。

■第2章－七飯町の観光の課題

1. アンケート調査で見た七飯町の観光の課題

七飯町の観光に関する認知度などについて、平成26年度において日本自動車連盟の会員向け機関紙を通してアンケート調査を行った結果、次のとおりとなりました。

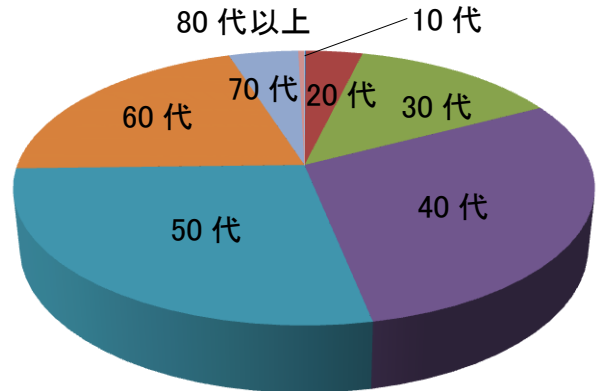
【 回答者：性別 】



有効回答数：15,830 人

男性	11,502 人 (72.7%)
女性	4,328 人 (27.3%)

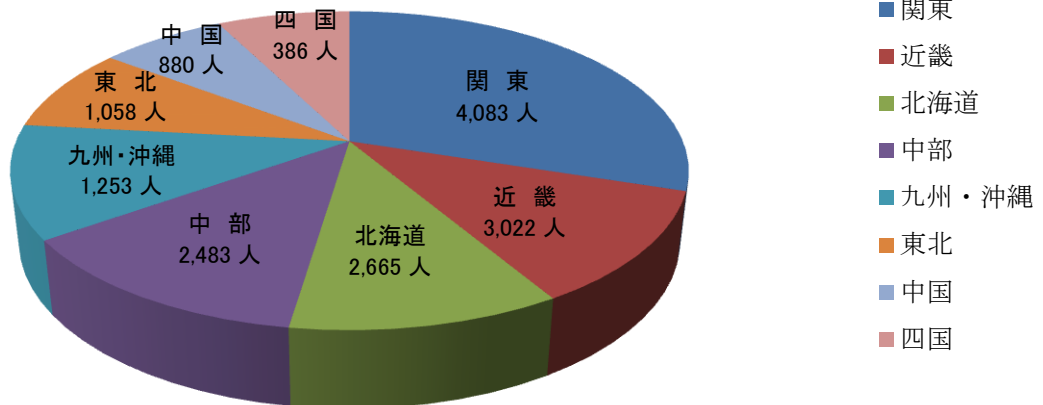
【 回答者：年代 】



有効回答数：15,830 人

10代	14 人(0.1%)	50代	4,400 人(27.8%)
20代	585 人(3.7%)	60代	3,237 人(20.4%)
30代	2,152 人(13.6%)	70代	719 人(4.5%)
40代	4,659 人(29.4%)	80代～	64 人(0.4%)

【 回答者：住所 】

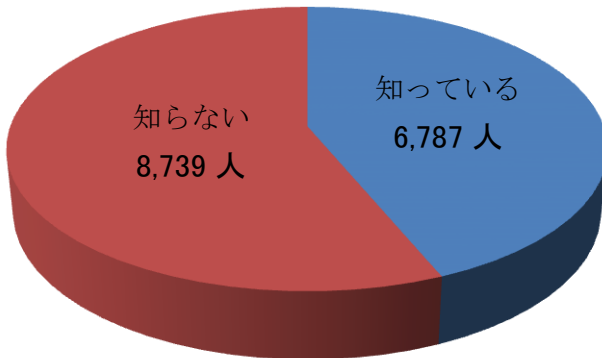


有効回答数：15,830 人

北海道	北海道	2,665 人	山梨県	83 人	東北	青森県	177 人
関東	茨城県	274 人	長野県	192 人	中国	岩手県	154 人
	栃木県	171 人	新潟県	169 人		秋田県	113 人
	群馬県	163 人	富山県	139 人		宮城県	320 人
	埼玉県	674 人	石川県	125 人		山形県	114 人
	千葉県	636 人	福井県	92 人		福島県	180 人
	東京都	1,144 人	静岡県	474 人		鳥取県	78 人
	神奈川県	1,021 人	愛知県	975 人		島根県	79 人
	福岡県	571 人	岐阜県	234 人		岡山県	227 人
九州・沖縄	佐賀県	73 人	三重県	206 人	広島県	340 人	
	長崎県	119 人	滋賀県	202 人	山口県	156 人	
	熊本県	130 人	京都府	424 人	香川県	108 人	
	大分県	138 人	大阪府	1,021 人	愛媛県	134 人	
	宮崎県	84 人	兵庫県	763 人	徳島県	77 人	
	鹿児島県	97 人	奈良県	269 人	高知県	67 人	
	沖縄県	41 人	和歌山県	137 人			

【 七飯町の認知度 】

問1：北海道七飯町は新日本三景に選定された大沼国定公園を有し、函館市の北に位置する町ですが、知っていますか？



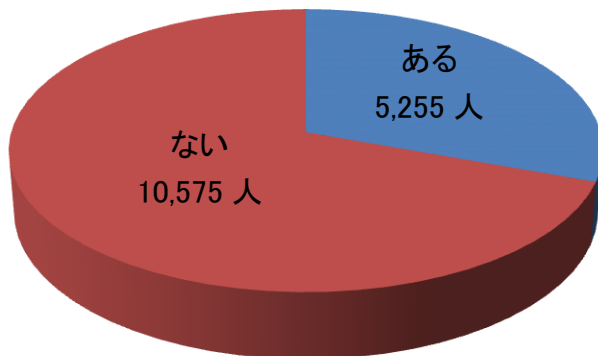
有効回答数：15,526人	
知っている	6,787人 (43.7%)
知らない	8,739人 (56.3%)

設問により当町が全国的にどの程度認知されているのかを調査したものであり、都道府県ごとの回答者数に偏りはあるものの、「知っている」の回答数は半数以下となりました。

この結果は、国内における当町のプロモーション等が不十分または効果的ではないことに起因するものと考えられることから、今後は継続的かつ効果的なプロモーションを実施する必要があります。

【 七飯町への訪問 】

問2：北海道七飯町を訪れたことはありますか？



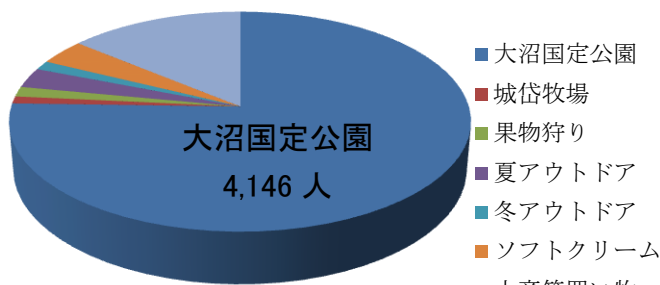
有効回答数：15,830人	
ある	5,255人 (33.2%)
ない	10,575人 (66.8%)

当町への訪問経験について設問により調査したものであり、当町への訪問経験が「ある」の回答数は3割程度となりました。

この結果は、問1同様、当町のプロモーション等が不十分または効果的ではなかったため、当町の持つ魅力を全国的に十分伝えきれていないことに起因するものと考えられることから、いかにして当町の魅力を伝え、訪問の動機づけを行っていくのかが大きな課題となっております。

■第2章—七飯町の観光の課題

【 七飯町を訪れた際の訪問地 】



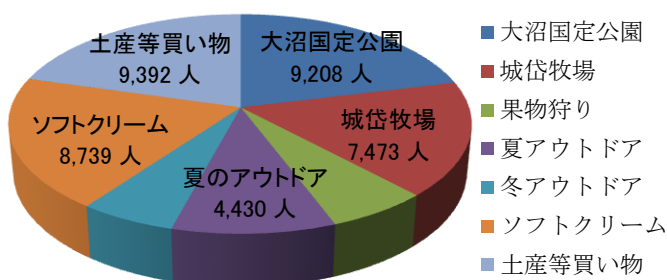
問3：七飯町を訪れた方にお聞きします。七飯町ではどちらに行かれましたか？もしくは何をされましたか？（選択・複数回答可）

有効回答数：5,641人	
大沼国定公園	4,146人 (73.5%)
城岱牧場	53人 (0.9%)
果物狩り	64人 (1.1%)
夏のアウトドア	147人 (2.6%)
冬のアウトドア	86人 (1.5%)
ソフトクリームを食べた	266人 (4.7%)
お土産等買い物をした	879人 (15.6%)

七飯町への訪問歴がある回答者を対象に、訪問の際の行先を選択・複数回答方式でアンケート調査を行った結果、回答数の4分の3程度が「大沼国定公園」を訪れていると回答された一方、大沼以外の観光地への立ち寄りやアクティビティー等を行った人がほとんどいないという実態がうかがえます。

大沼国定公園は町を代表する観光地となっておりますが、町内には大沼公園以外にも数多くの観光資源があることから、北海道新幹線開業に伴う経済効果の波及を、広く町内にもたらすとともに、後述の滞在型観光推進のためにも、大沼公園以外の観光スポットやアウトドアなどの体験観光メニューが観光客にとってより魅力あるものに磨き上げるとともに、これらが広く認知されるようPRに努める必要があります。

【 町観光資源への興味 】



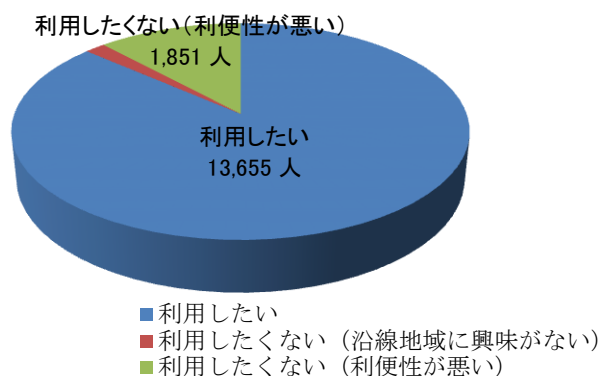
問4：以下のもので、興味のあるものを教えてください。（選択・複数回答可）

有効回答数：44,738人	
大沼国定公園	9,208人 (20.6%)
城岱牧場	7,473人 (16.7%)
果物狩り	2,957人 (6.6%)
夏のアウトドア	4,430人 (9.9%)
冬のアウトドア	2,539人 (5.7%)
ソフトクリーム	8,739人 (19.5%)
お土産等買い物	9,392人 (21.0%)

次に、全回答者を対象に、七飯町の観光資源と考えられるもののうち、興味のあるものについて選択・複数回答方式でアンケート調査を行った結果、問3の訪問地とは対照的に観光客の興味が分散していることから、多様なニーズがあることが分かりました。

この結果は引き続き調査を行う必要があるものの、大沼国定公園以外の観光スポットや体験観光メニューが認知されていなかったことや団体旅行の行程に含まれなかったためと考えられることから、前述と同様、これらが広く認知されるよう、また、団体旅行の行程に組み込まれるようPRを行う必要があります。

【 北海道新幹線の利用意向 】



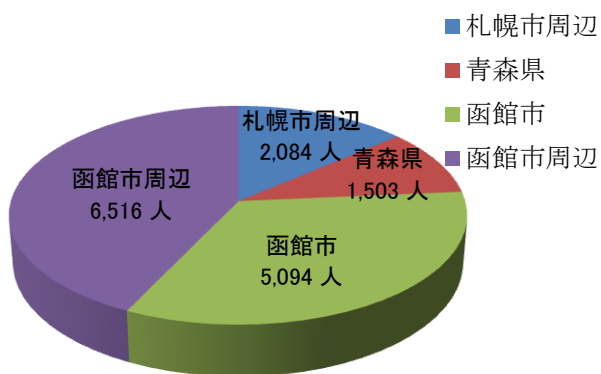
問5：北海道新幹線が開業されますと、東京～新函館北斗間が約4時間10分、大宮～新函館北斗間が約3時間50分、仙台新函館北斗間が約2時間40分で結ばれることとなりますが、北海道新幹線を利用したいと思いますか？（選択）

有効回答数：15,830 人	
利用したい	13,655 人 (86.3%)
利用したくない (沿線地域に興味がない)	324 人 (2.0%)
利用したくない (利便性が悪い)	1,851 人 (11.7%)

全回答者を対象として北海道新幹線の利用意向についてアンケート調査を行った結果、「利用したい」という回答が13,655人(86.3%)と大勢を占め、「利用したくない(沿線地域に興味がない)」という回答は324人(2.0%)に留まっていることから、全国的にも北海道新幹線の開業や、新駅周辺地域への関心が高いことがうかがえます。

また、1,851人(11.7%)の方が「利用したくない(利便性が悪い)」と回答しておりますが、新幹線と競合する航空機と比較し、乗降駅・空港の立地や移動時間を総合的に判断した場合、航空機の方が新幹線より優位な地域において顕著になっております。

【 北海道新幹線で行きたい所 】



問6：北海道新幹線を利用してどちらを訪れたいですか？（選択）

有効回答数：15,197 人	
札幌市周辺	2,084 人 (13.7%)
青森県	1,503 人 (9.9%)
函館市	5,094 人 (33.5%)
函館市周辺	6,516 人 (42.9%)

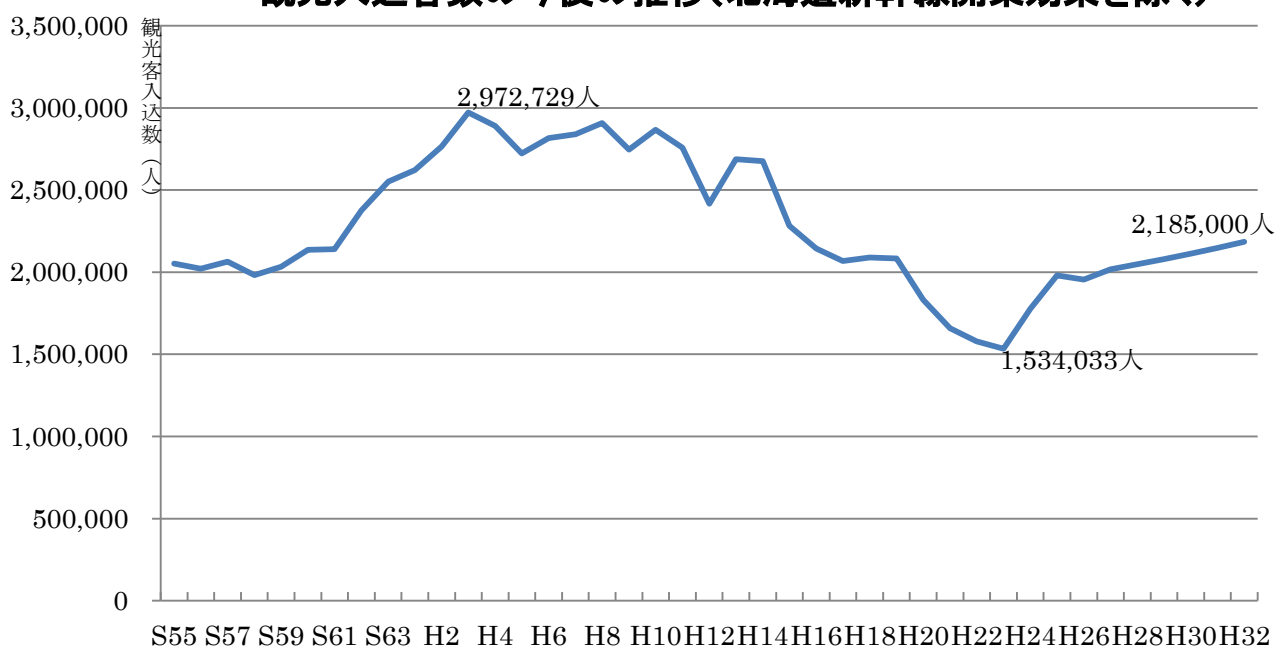
続いて、北海道新幹線が開業した際に新幹線で訪れたい所について選択方式でアンケート調査を行ったところ、函館市周辺(北斗市・七飯町・松前町・江差町など)が6,516人(42.9%)と最も多く、次いで函館市の5,094人(33.5%)となり、道南圏域としては合計11,610人(76.4%)と4分の3以上の方が北海道新幹線で道南を訪れたいと考えていることがわかりました。札幌市周辺への訪問については、札幌延伸が平成42年度と10年以上先となることから、本件アンケートの回答においても2,084人(13.7%)に留まりました。

2. 観光入込客数の推移からみた七飯町の観光の課題

前章1. 観光入込客数の推移の『七飯町観光入込客数の推移』のとおり、当町の観光入込客数は平成3年度の297万人をピークに減少傾向にあり、特に平成23年度の入込数は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災などの影響により、過去10年間の最小値である153万人にまで落ち込みました。

現在は、平成17年度～平成19年度水準まで回復しており、平成26年度の入込客数は、1,954,312人となりました。今後の入込客数を、平成17年度～平成19年度水準で推移すると仮定した場合、概ね210万人～220万人程度で推移するものと考えられます。

観光入込客数の今後の推移(北海道新幹線開業効果を除く)



※出展『北海道観光入込客数調査』より

また、平成28年3月に予定している北海道新幹線開業に伴う観光入込客数の増加見込を次のとおり算出し、当該数値を加えた推移を次のとおり試算しました。

【北海道新幹線開業に伴う観光客入込数増加見込について】

(車 両) H5系10両編成(座席数731席/便)

(便 数) 15本/日

(乗 車 率) 60%

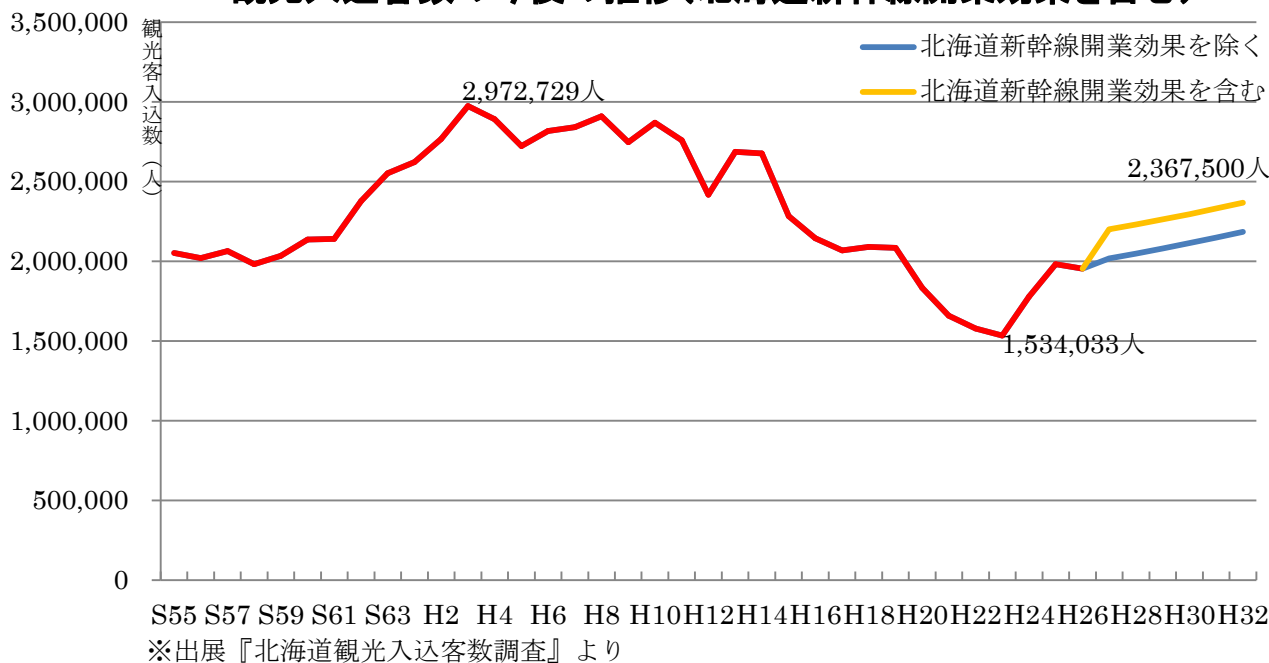
(大沼への入込) 7.6% ※平成19年3月『北海道新幹線「新函館(仮称)駅」開業に関するアンケート調査』より

北海道新幹線開業に伴う観光入込客数の増加見込人数(年間)

$731 \text{ 席/日} \times 15 \text{ 本/日} \times 60\% \times 365 \text{ 日} \times 7.6\%$

$\approx 182,500 \text{ 人/年}$

観光入込客数の今後の推移(北海道新幹線開業効果を含む)



この『観光入込客数の今後の推移(北海道新幹線開業効果を含む)』は、北海道新幹線を利用して旅行するとした場合に訪問したい場所(複数回答可)についてアンケートを行い、「大沼」が選択された割合で算出された観光入込客数増加見込人数(182,500人/年)を前頁グラフの数値に加えたもので、この新幹線開業効果を加えた入込客数は年間237万人程度で推移するものと見込んでおります。

この237万人という数値は、南北海道の玄関口がJR函館駅や函館空港から新函館北斗駅へシフトし、当町の観光地である大沼国定公園へのアクセス・利便性が飛躍的に向上するなかでの数値としては高いものとは言えず、特に、新幹線開業時の訪問したい場所として大沼が選択された割合が7.6%に留まった結果は、当町の見どころや特産品の魅力が十分に伝えきれていないことに起因するものと考えられることから、新幹線利用者をはじめ、北海道を訪れる多くの観光客に対し七飯町の魅力を伝え、当町への訪問について動機付けを行っていくのが大きな課題となっております。

また、こうした課題がある一方、北海道新幹線開業前後においては、メディアによる全国報道等が集中することが予想され、必然的に北海道、特にこの道南地域の露出が高まるとともに、その注目度は、昭和60年の青函トンネル開通や昭和63年の津軽海峡線の開業以来のものとなり、また、新幹線という利便性の高い高速交通も相まって、北海道新幹線の開業は、全国から道南への来訪の大きな動機付けとなることから、こうした好機を逃すことなく、より効果的なPRを行う必要があります。

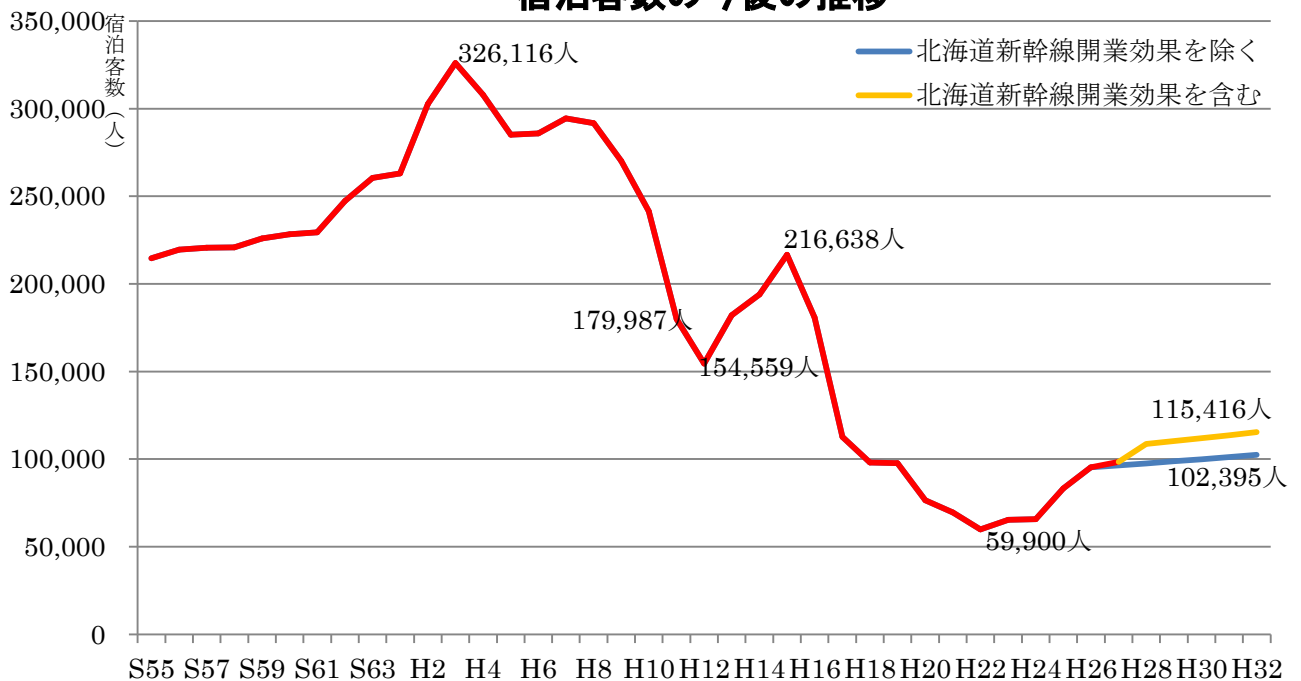
北海道新幹線開業効果を最大限に活用し、維持・拡大していくための取り組みは、開業直前はもちろん、開業後、特に平成42年度までに開業を予定している札幌延伸までの間、地域力を弛むことなく、いかに高め続けるか、また、こうした魅力をいかにして伝え続けていくのが重要となっていることから、新函館北斗駅開業をゴールとはせず、長期的な展望を持った施策の展開がこれまで以上に求められています。

3. 宿泊客数の推移からみた七飯町の観光の課題

前章2. 宿泊客数の推移のとおり、当町の宿泊客数は、観光入込客数と連動するように推移しており、平成3年度の326,116人をピークとして平成9年度までは緩やかに減少し、概ね29万人程度で推移していましたが、平成11年度は約18万人、平成12年度は約15万5千人と急激に減少し、平成15年度には約21万7千人程度まで回復したものの、以降は減少傾向が顕著にみられ、特に平成22年度の宿泊客数は、統計以来最小値である59,900人にまで落ち込みました。

現在の宿泊客数は、平成3年度の3分の1から4分の1程度で推移しておりますが、平成28年3月に予定している北海道新幹線の開業効果を除いた今後の見込みは概ね10万2,000人程度、開業効果を含んだ場合は概ね11万5,000人程度で推移するものと考えられます。

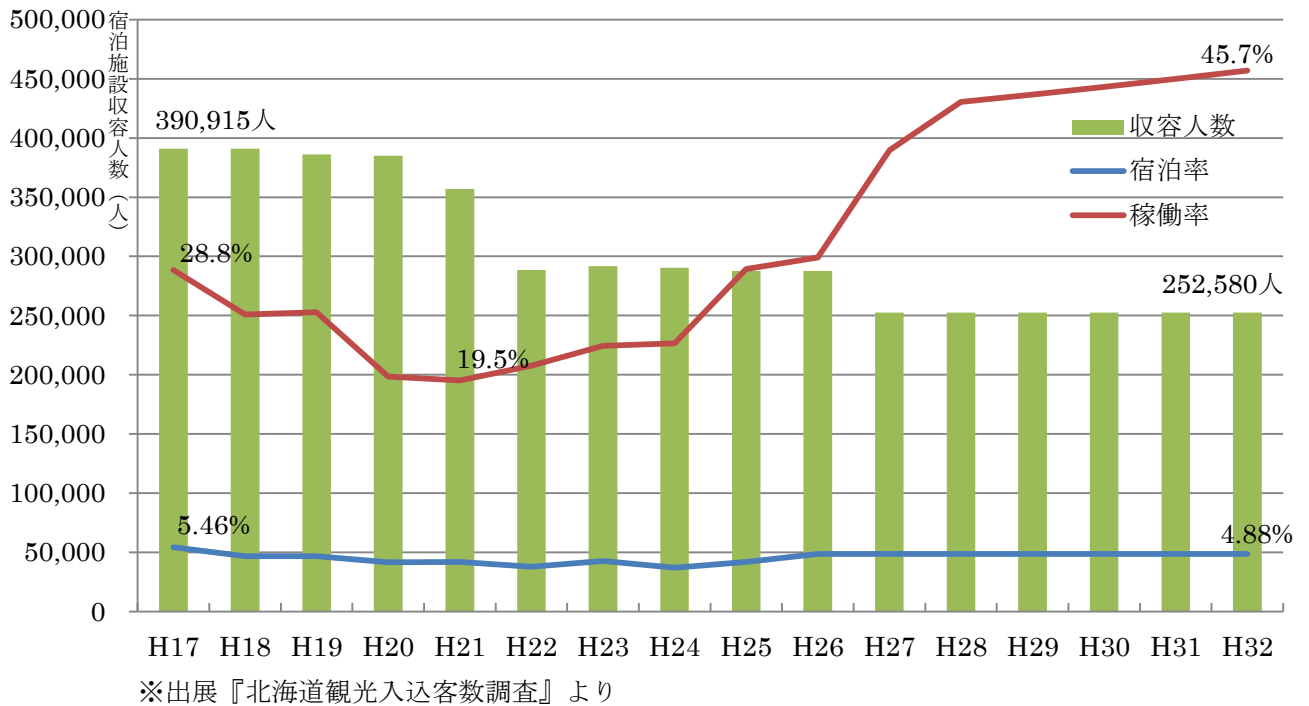
宿泊客数の今後の推移



※出展『北海道観光入込客数調査』より

収容人数、宿泊割合、稼働率の今後の推移は次のグラフのとおりとなります。収容人数については、平成22年度以降、宿泊施設の廃業や休業が相次ぎ、年間29万人程度で推移していましたが、平成27年度より35万5千人程度まで回復する見込みです。宿泊率については、第1章2. 宿泊客数の推移の『観光入込客数と宿泊客数でみた宿泊割合の推移』のとおり、昭和58年度の11.14%をピークに減少傾向にあり、直近10年間は概ね4%前後で推移してきたところですが、今後は5%程度で推移するものと考えられるほか、稼働率についても、現在、顕著に増加を続ける外国人観光客の冬期間における宿泊増などにより46%程度まで回復する見込みとなっております。

過去10年間における収容人数・宿泊率・稼働率と今後の推移



北海道新幹線の開業に伴い、これらの改善が見込まれる一方で、この見込みが、これまでの推移と比較した数値として必ずしも高いものではなく、収容人数、宿泊率ともに平成16年度と比較し大きく下回り、また、稼働率の上昇は宿泊客数の増加によるものである一方、収容人数の低下によるところが大きく、これらをいかにして改善していくかが今後の課題となります。

収容人数の増加については、施設の新増設など、民間による建設投資を要する性質上、短期的な増加を見込むことが難しいことから、中期的には既存施設の稼働率や宿泊率の改善を図り、長期的には宿泊施設の新増設を促進していくための施策を行うなど、中長期一体としての取り組みを行う必要があります。

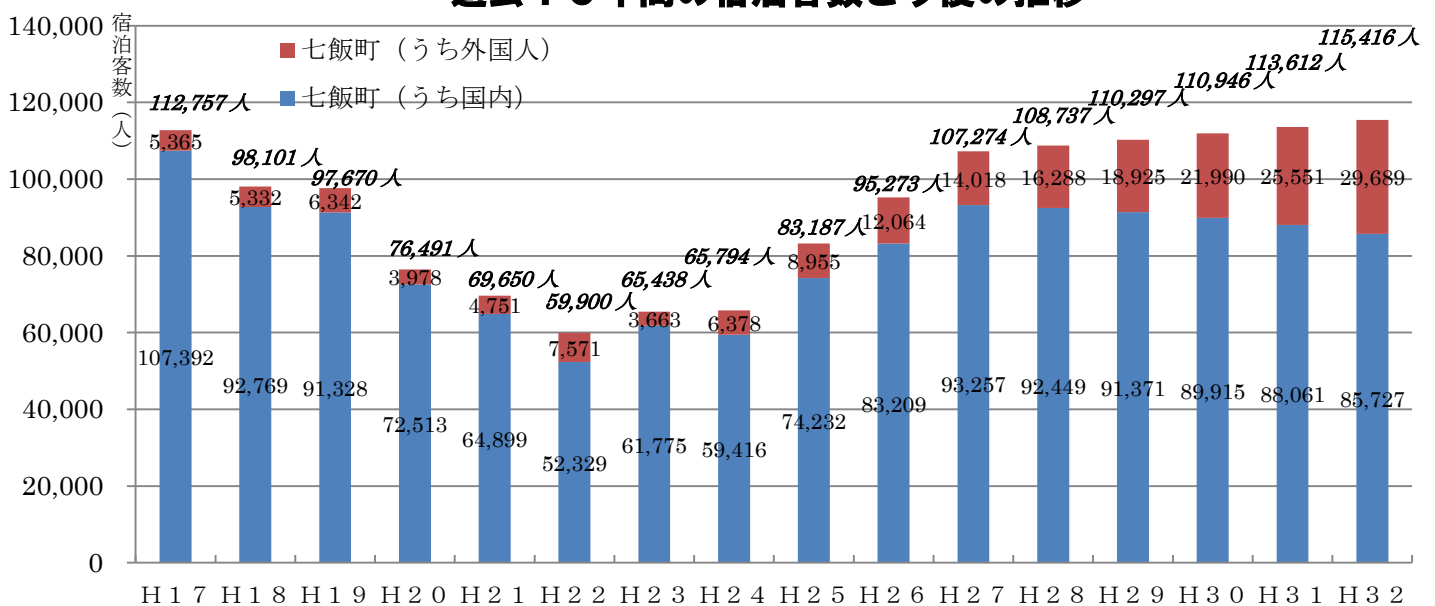
宿泊率および稼働率の増加については、現在、当町の観光が通過型であることを鑑み、これを滞在型に近づけ、宿泊につなげる取り組みが必要不可欠であり、モデルコースや体験観光商品の造成など新たな商品開発の取り組みを通して、滞在時間の延長と、それに伴う宿泊の促進を図ってまいります。そのためにも、元来、当町が持っている魅力を今一度掘り起し、磨き上げ、発信し、かつ、これらを継続的に実施し続けることが何よりも重要であり、特に発信については、当町の魅力を広く多くの人に認知してもらうための施策として、特に重要であると考えております。

4. 外国人宿泊客数の推移からみた七飯町の観光の課題

第1章2. 宿泊客数の推移のとおり、外国人宿泊客数は堅調に増加しておりますが、過去10年間における当町の宿泊客数のうち、国内観光客と外国人観光客の内訳と今後の推移を表したものが次のグラフとなります。

外国人宿泊客数の調査は平成9年度より開始され、概ね5,000～6,000人程度で推移し、平成20年度のリーマンショックに端を発した世界的な経済低迷や、平成21年度の新型インフルエンザの流行などにより一時的に減少したものの、平成22年度は7,571人にまで増加し、翌平成23年度は平成23年3月11日に発生した東日本大震災を要因とした外国人観光客の日本への渡航控えが影響し、過去10年間の最小値となる3,663人にまで減少。翌平成24年度は、震災の影響から脱却し、6,378人まで回復するなど、その動向は、世界経済、国際情勢、天変地異などの影響を大きく受けるなど不安定な側面がありますが、現在、外国人宿泊客数は著しく増加を続け、平成26年度においては12,000人を突破したことから、当面この傾向は続くものと考えられます。

過去10年間の宿泊客数と今後の推移



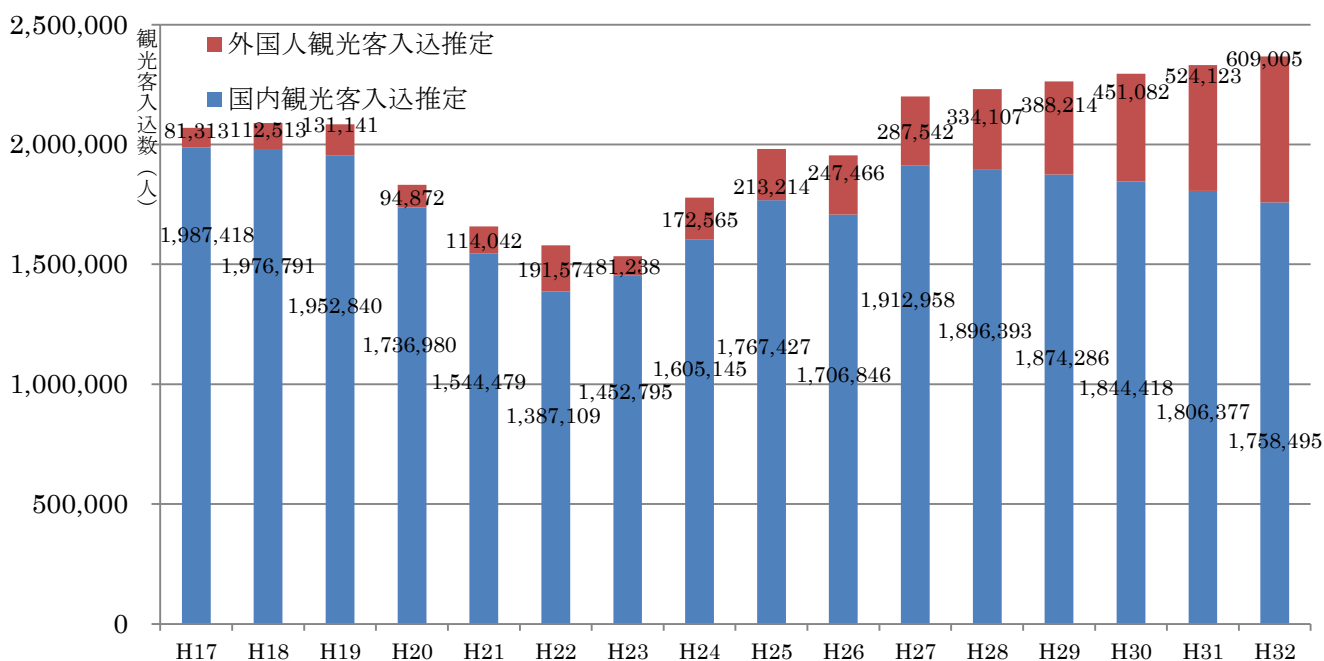
※出展『北海道観光入込客数調査』より

当町の宿泊客における日本人と外国人の比率については、平成28年3月に開業する北海道新幹線開業効果により、日本人の宿泊者数の増加をある程度見込んでいるものの、少子高齢化による旅行人口の減少や年々増加を続ける外国人観光客との関係から、日本人の宿泊客数は相対的に減少し、外国人が占める割合が増加するものと推測されます。

次に、当町への観光入込客数のうち国内観光客と外国人観光客の割合を表したものが次のグラフです。

外国人観光客の入込実数は、現時点の統計調査では全ての観光関連施設において把握することが困難であることから、推定値による分析となり、ここでは、ほぼ確実に把握することができる外国人宿泊客数と国内観光客数の比率および第2章2. 観光入込客数の推移からみた七飯町の観光の課題の『観光入込客数の今後の推移（北海道新幹線開業効果を含む）』で算出した観光入込客数を用い算出したものとなります。

観光入込客数の国内外の割合と今後の推移



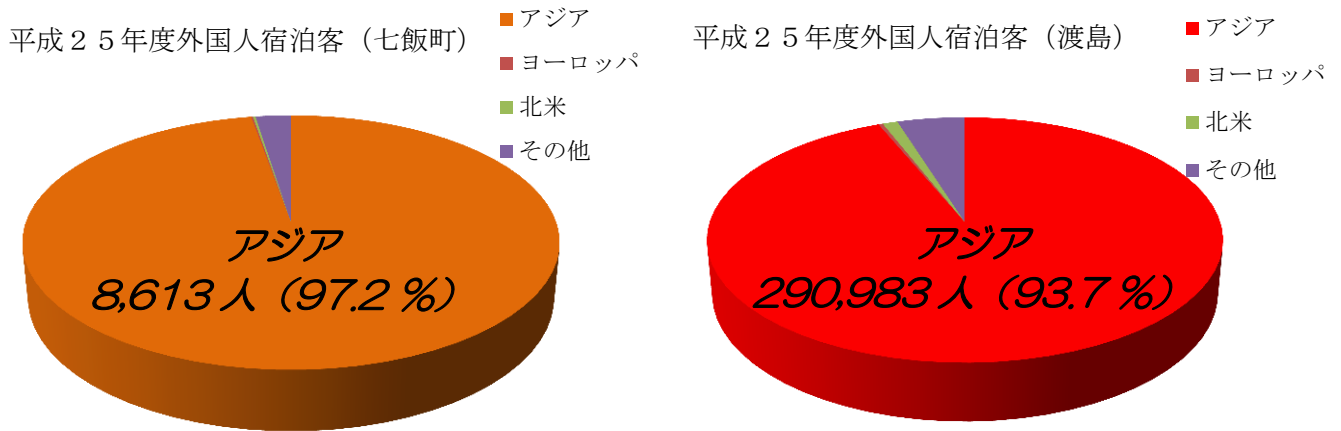
※出展『北海道観光入込客数調査』より

平成17年度時点における外国人観光客数は、81,313人と年間入込総数の3.9%程度と推定され、以降、平成22年度まで堅調に推移し、東日本大震災発生直後の平成23年度には、一時的に大きく減少しましたが、翌平成24年度以降は再び増加に転じ、平成26年度には247,466人と全体のおよそ12.7%を占める程になり、今後は4分の1を占めるものと考えられます。

北海道新幹線開業により、東京などで入国した外国人観光客にとっては、移動手段の選択肢が増えることにより道南への来訪機会が増え、これに伴い当町への来訪機会が増加することや、LCCの就航、函館空港における国際線直行便の増便など、交通基盤の整備に伴う増加が期待できるほか、現在、特にアジア圏における北海道の高いブランドイメージやトレンドによる増加、さらには2020年の東京オリンピック開催を契機とした増加など、外国人観光客は、今後ますます増加していくものと考えられます。

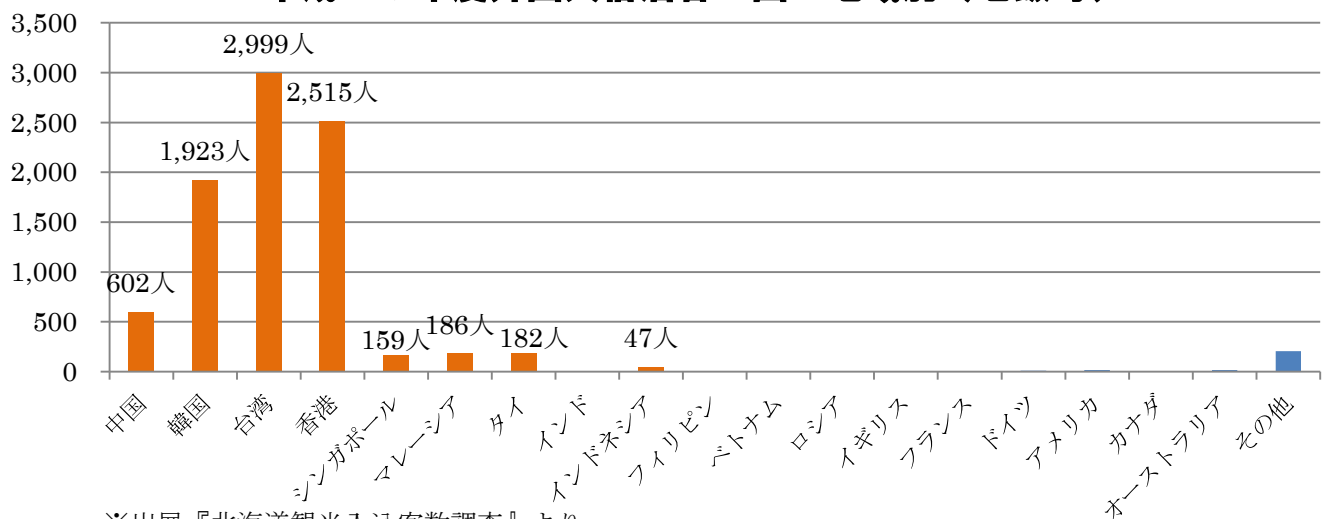
■第2章－七飯町の観光の課題

また、平成25年度において当町及び渡島管内に宿泊した外国人観光客を国や地域別に集計、比較したものが、次のとおりとなります。



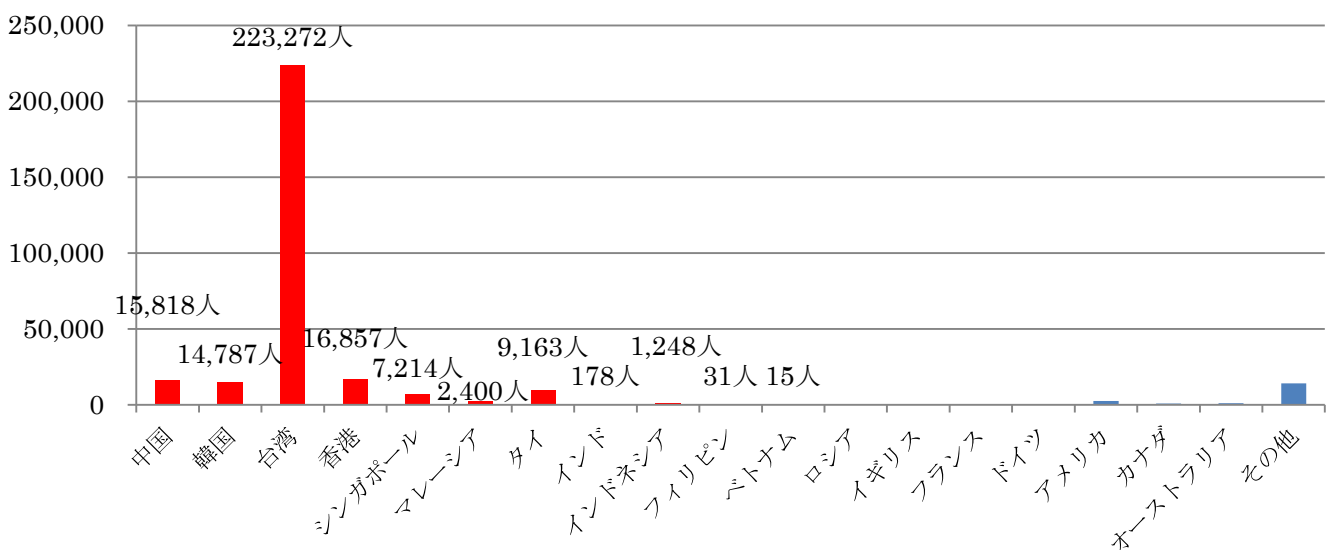
※出展『北海道観光入込客数調査』より

平成25年度外国人宿泊客 国・地域別（七飯町）



※出展『北海道観光入込客数調査』より

平成25年度外国人宿泊客 国・地域別（渡島）



※出展『北海道観光入込客数調査』より

外国人宿泊客数は、七飯町・渡島管内ともにアジア圏がその大部分を占め、国・地域別に見た場合は、渡島管内については特に台湾からの宿泊客が突出し、当町は台湾・香港・韓国・中国からの宿泊客が多く、特に、香港・韓国については渡島管内に宿泊した人数のうち当町で宿泊した人数の割合がそれぞれ 14.9%・13.0%と高い水準にあることがわかりました。

一方、台湾からの観光客のうち渡島管内に宿泊した人数と七飯町で宿泊した人数の割合を算出した結果、当町への宿泊は渡島全体のわずか 1.3%に過ぎず、我がまちとしても、こうした外国人観光客をより多く受け入れることができる可能性があることから、外国人観光客の受入環境の充実化を図る必要があります。

また、国土交通省観光庁が平成 23 年 10 月に実施した外国人旅行者の日本の受入環境に対する不便・不満についてアンケート調査を行い、次のとおりとなりました。

項 目	旅行中困ったこと と回答された割合	旅行中最も困ったこと と回答された割合
目的地までの公共交通の経路情報の入手	<u>20.0%</u>	<u>10.5%</u>
公共交通の利用方法（乗り方）、利用料金	<u>17.1%</u>	<u>7.3%</u>
公共交通の乗り場情報の入手	10.2%	3.2%
公共交通の乗車券手配	6.1%	1.3%
観光情報（見所、文化体験等）の入手	5.0%	1.9%
観光チケット（入場券等）の入手	2.3%	0.3%
飲食店情報の入手	11.5%	4.6%
飲食店の予約	6.5%	1.6%
宿泊施設情報の入手	2.1%	0.8%
宿泊施設の予約	2.5%	1.3%
ツアー・旅行商品情報の入手	1.5%	0.3%
ツアー・旅行商品の予約	1.0%	0.3%
割引チケット・フリー切符の情報の入手	9.4%	1.6%
割引チケット・フリー切符の入手	5.0%	1.9%
無料公衆無線LAN環境	<u>36.7%</u>	<u>23.9%</u>
両替・クレジットカード利用	<u>16.1%</u>	<u>9.1%</u>
外国語の通じる病院情報の入手	1.7%	0.5%
地図、パンフレット（多言語）が少ない	9.8%	3.8%
地図、パンフレットが分かりにくい	5.0%	1.1%
観光案内所の数が少ない	4.0%	1.6%
観光案内所の場所が分かりにくい	4.2%	1.3%
ピトグラム・サインが少ない	3.8%	1.1%
ピトグラム・サインが分かりにくい	4.4%	0.8%
コミュニケーション	<u>24.0%</u>	<u>17.5%</u>
その他	6.1%	2.4%

このアンケート調査は、日本への旅行全体としての回答となりますが、当町においても同様の課題が多いことから、受入環境の充実化を図るうえでも、こうした外国人旅行者のニーズに沿った環境整備が求められております。

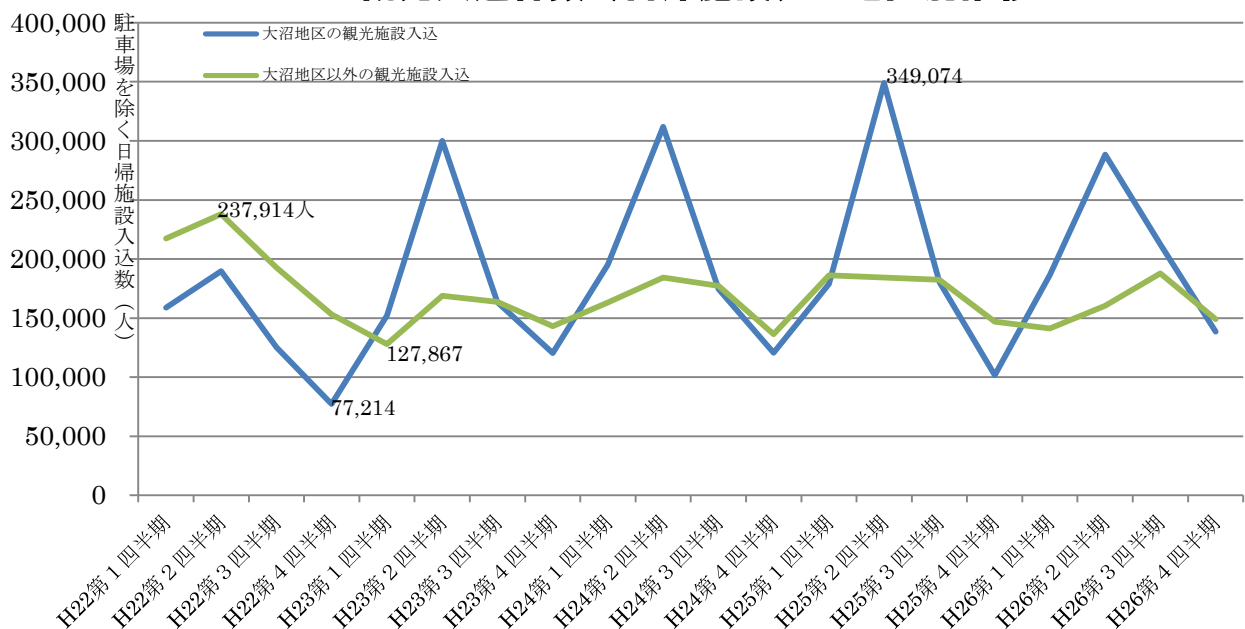
5. 観光地点の入込動向からみた七飯町の観光の課題

第1章3. 観光地点の入込動向の『過去5年間における日帰施設の入込動向』のとおり、当町の観光施設（うち日帰施設）の入込動向は、土産・食事・アクティビティー・観光案内所ともに観光最盛期にあたる7月から9月までの第2四半期において最も多い傾向にあり、閑散期にあたる1月から3月までの第4四半期に最小化する（アクティビティーに関しては4月から6月までの第1四半期に最小化）傾向となっていることから、観光客入込数の底上げを図る上でも、現時点においては第4四半期への対策が特に必要であると考えられます。

その施策の一つとして、第1四半期や第4四半期において新たなイベントの企画・開催が考えられますが、イベント型観光による誘客は、その効果が一過性であることや、今後ますます進行すると考えられる少子高齢化により、地域の担い手が減少し、将来的にはイベントの継続が困難となることが予想されることから、イベント型観光誘客に過度に期待するのではなく、季節ごとの観光コンテンツを提供するなどといった通年型観光への取り組みを重点的かつ継続的に行うことが重要であるとともに、地域の担い手の育成や新たな活力の活用も含めた人材の確保を行いながら現在実施されているイベントの継続・改善、そして新たなイベントについて検討・実施するなど、バランスのとれた施策を行う必要があります。

次に、観光地点（日帰施設）の入込動向について、当町の代表的な観光地である大沼地区とそれ以外の地区について分析したものが次のグラフとなります。なお、通常、入込数は、主に大沼地区の駐車場の利用者数を計上しますが、ここでは大沼国定公園以外の日帰施設に訪れた観光客数を分析するため、駐車場利用者を除いた入込数により比較しております。

観光入込客数（日帰施設）の地区別推移



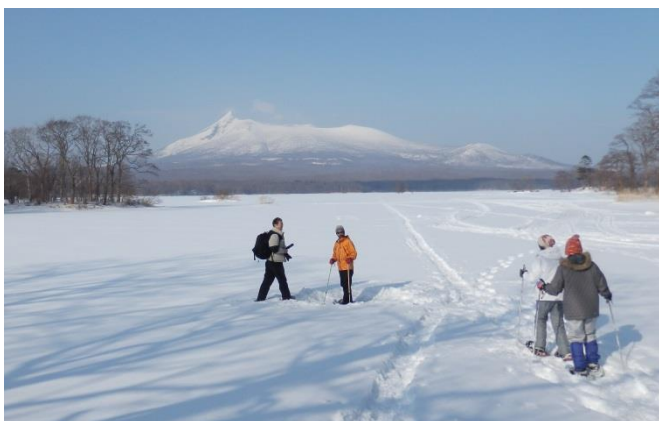
※出展『北海道観光入込客数調査』より

過去5年間における大沼地区とそれ以外の地区における日帰施設の入込状況は、第1章3. 観光地点の入込動向とほぼ同様に、1年間のうち、概ね第2四半期（7月～9月）の入込が最も多く、第4四半期（1月～3月）が最も少ない傾向にあり、大沼地区の日帰施設への入込数については堅調に増加している一方、大沼地区以外の日帰施設の入込は、ほぼ横ばいで推移していることから、当町を訪れる観光客を大沼地区以外の日帰施設への入込を促進し、観光消費に伴う経済効果を町内全体へ波及させるためにも、町内を周遊させる仕組みづくりが重要となっております。

また、日帰施設への入込数は、第2章4. 外国人宿泊客数の推移からみた七飯町の観光の課題『観光入込客数の国内外の割合と今後の推移』とは対照的に、平成23年度における入込数についても増加傾向にあることから、大沼国定公園以外の日帰施設への入込のほとんどは国内旅行客であり、現時点では、外国人観光客がこうした施設へあまり訪れていないことが推測されることから、近年、顕著に増加を続ける外国人観光客のこうした施設への誘客についても対策を行っていく必要があります。

日帰施設への入込を町内全域に波及させることや外国人観光客の入込促進を図る一方で、当町の日帰施設の多くは中小規模であるため、施設の収容人数が少なく、また、従業員数に限りがあり、体験メニューの提供に多くの人員を割けないことや、大型バスの駐車場等の団体旅行を受け入れるための設備が無い施設が多くを占め、団体旅行への対応が困難となっております。

しかしながら、我がまちには非常に優れた製品を生産している生産者や中小規模だからこそ提供できる商品を取り扱った施設が数多くあることから、第一に着手すべきは第1章3. 観光地点の入込動向の『七飯町への観光の個人旅行および団体旅行の傾向』のとおり、近年増加を続けている個人観光客（FIT）を主な対象とした施策を行うことで、こうした施設や製品の認知度を上げ誘客を図るとともに、当町の優れた製品などに触れ、味わうことで当町のファンを増やし、リピーターとなってもらったり、外国人観光客への施策として観光マップやパンフレットなどの多言語化や魅力的な施設の紹介はもちろんのこと、発地・着地の用途に沿った効果的なツールづくりを行うことで誘客を促進する必要があり、こうした取り組みを通し町内市場の拡大を図り、長期的には団体旅行の受入のための整備を図っていくことが課題となっております。



結氷した大沼湖をスノーシューで散策



大沼ネイチャーガイドの皆さん

第2章で挙げた当町の観光が抱えている課題をまとめると、概ね次のとおりとなります。

1. 町の認知度不足への対策

- ①観光プロモーションなど魅力の発信による認知度向上
- ②ツールの魅力向上および効果的な活用

2. 滞在型観光の促進に向けた対策

- ①長時間滞在させる魅力ある観光商品の造成と景観等維持管理
- ②宿泊者用のメニュー・プログラムの充実化

3. 外国人観光客の受入環境の整備に向けた対策

- ①外国人観光客が活用しやすいツールの作成
- ②外国人観光客のニーズに沿ったハード整備
- ③外国人観光客の受入体制とおもてなしの向上
- ④観光プロモーション等、諸外国への情報発信の強化

4. 通年型観光の促進に向けた対策

- ①季節ごとに特色のある魅力的な観光商品の造成と情報発信
- ②継続的なサービス提供のための担い手の育成

5. 観光による経済効果の全町への波及に向けた対策

- ①町内観光施設等の魅力発信による周遊促進
- ②町内各地における新たな観光商品の造成と既存商品の充実化
- ③二次交通の充実化による周遊促進
- ④道の駅を核とした道の駅エリアの周辺整備と地域の活性化

わが町が抱える観光の課題は、『町に認知度不足に関する課題』『滞在型観光の促進に向けた取り組み』『外国人観光客の受入環境の整備』『通年型観光の促進に向けた取り組み』『観光による経済効果の全町への波及に向けた取り組み』の大きく5つに分類されることから、特にこの5項目について次項より記載される事業メニューにより重点的に対策を進めてまいります。

また、町内の主たる観光エリアを『大沼エリア』『北海道新幹線北口エリア』『赤松街道エリア』の三地域に分類し、それぞれの特色を活かした事業の展開やブランド化を進め、町内における観光受入体制の分業を図り、町を訪れた観光客が三地域を相互に行き来する仕組みづくりを進めることで、観光がもたらす経済効果を町内全域に享受できるよう施策を進めてまいります。

特に『北海道新幹線北口エリア』については、北海道新幹線新函館北斗駅の北口より程近く、新幹線で訪れた観光客にとっては北海道観光の玄関口であり、第一の観光拠点となり得ることから、町内エリア間や近隣観光地へ円滑に観光客を送客するための重要な役割を担っており、本地域においては、平成29年度末の完成を目指し道の駅の建設を予定していることから、道の駅の持つ集客力や情報発信力を最大限に活用するためにも、当該地域をゲートウェイエリアと位置付け様々な施策を進めてまいります。

さらには、わが町は様々な観光資源を持つ一方、宿泊施設や観光施設の対応人数の制約や新たなインフラ整備の必要性など、団体旅行の受入体制として短期的な解決が困難な課題が数多くあることから、大型施設を持つ、あるいは、わが町には無い観光資源を持つ近隣市町との連携によりこうした課題を補完するとともに、近隣市町もまた、連携により恩恵があるといった広域的互惠関係の構築を図ってまいります。



■第3章－七飯町の観光の諸課題への対策

1. 町の認知度不足への対策

町の認知度不足は極めて初歩的な課題であるとともに、わが町の観光振興を図る上でも最優先で対処すべきものであることから、こうした課題への取り組みとして、イベントと連動したプロモーション、情報誌などを活用したブランド発信、観光パンフレットなどの充実化や効果的な運用、北海道新幹線北口エリアに建設予定の道の駅による観光情報の発信やプロモーションイベントの実施など、情報発信のさらなる強化を図るとともに、スポーツイベントやスポーツ合宿の誘致などにより町の知名度向上を図るなど、次の事業メニューにより施策を進めてまいります。

課題・取り組み	事業メニュー	事業概要	実施主体
①観光プロモーションなど魅力の発信による認知度向上	1) イベントなどによるプロモーション	平成22年から新幹線沿線地で実施している食と観光のPRイベント「函館・みなみ北海道グルメパーク」を平成27年まで開催するほか、新幹線沿線地のホテルレストランなどで行われている「北海道フェア」や百貨店で行われている「北海道物産展」と連携して継続的に食と観光の魅力を発信し、七飯町の知名度を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会 ・七飯町物産振興協議会
	2) 情報誌などを活用したブランド発信	七飯町の魅力をより強く発信するために統一的なブランドコンセプトのもと、ターゲットとなる客層に対して有効な情報誌などへの広告に集中的かつ継続的に魅力を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町
	3) スポーツ合宿の誘致に伴うプロモーションの実施	<p>現在、七飯町ではフロンターレ川崎や実業団陸上チームなどによるスポーツ合宿を受け入れていることから、この国内合宿の誘致活動を継続させながら、知名度向上を図るためのプロモーションを行う。</p> <p>また、2020年の東京オリンピック開催時に行われる海外チームの事前合宿誘致を見据えて地元でのおもてなしを充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町
	4) ラン・ウォークイベントの実施	<p>近年、ランニングブームで各地のマラソン大会に参加する方が増えている中、平成27年で30回目を迎える「北海道大沼グレートラン・ウォーク」は、近郊からの参加者が多く、道外からの参加者は少ない状況にある。</p> <p>給水やレース後の振る舞いなどで地域色を強く出して道外からの参加者を大幅に増やして、よい多くの人に道外からの参加者を体感してもらいながら、地域経済への波及効果を拡大させるとともに、認知度の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会
	5) 道の駅を拠点とした観光情報の発信	北海道新幹線北口エリアに建設予定の道の駅を、北海道新幹線により来道する観光客を迎える第一の観光拠点として位置付けるとともに、観光情報の発信拠点として最大限に活用し、町内各エリアへの周遊を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・道の駅

課題・取り組み	事業メニュー	事業概要	実施主体
② ツールの魅力向上および効果的な活用	1) パンフレットの充実、設置	関係団体が協議した中で七飯町の統一したブランドコンセプトを定め、そのブランドコンセプトのもと七飯町の魅力をPRする各種パンフレットを発地用および着地用に分けて作成する。町内のみならず函館市内の宿泊施設やレンタカー各社、道内外の情報発信施設など設置個所の充実を図るとともに、担当者との定期的な連絡のやり取りを行い、継続的に情報発信が行われるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会
	2) 広域連携による情報発信	<p>広域観光パンフレットの作成など広域連携による情報発信で、観光客の滞在化を促進させるとともに情報発信回数および発信量を増加させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ちびぷらり」 みなみ北海道観光推進協議会で作成する広域観光フリーペーパー ・「はこだて旅するパスポート」 北海道新幹線新駅沿線協議会で作成する交通フリーパスのパンフレット ・「(仮) 環駒パンフレット」 環駒ヶ岳広域観光協議会で作成する広域観光パンフレット。平成27年度完成予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みなみ北海道観光推進協議会 ・北海道新幹線新駅沿線協議会 ・環駒ヶ岳広域観光協議会

2. 滞在型観光の促進に向けた対策

滞在型観光の促進に向けた取り組みについては、新たなグルメ・体験メニューの開発、大沼地区以外のエリアにおける目玉コンテンツの開発などにより、町内の滞在時間を延長し、また、町内に宿泊することでしか体験できないコンテンツの造成など、低迷する宿泊客数の増加を図るため、次の事業メニューにより施策を進めてまいります。

課題・取り組み	事業メニュー	事業概要	実施主体
① 長時間滞在させる魅力ある観光商品の造成と景観等維持管理	1) グルメコンテンツの開発	<p>大沼湖畔で、地元産品をつかった“食”を大沼・駒ヶ岳の絶景を眺めながら楽しめるようなグルメコンテンツと、アウトドア体験や交通手段を組み合わせたものを、各事業者と連携しながら開発するとともに地域のにぎわいを創出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元産の肉・野菜による湖畔バーベキュー＋モーターボートやサイクリング ・周辺の飲食店の逸品をテイクアウト＋観光バスやJR 	<ul style="list-style-type: none"> ・大沼体験観光づくり実行委員会 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会 ・七飯町物産振興協議会
	2) 牧場での体験メニューづくり	<p>津軽海峡、函館山、北海道新幹線など絶景を見渡せる城岱牧場で、乳搾りやチーズ作り、バター作りなど北海道の牧場ならではの体験メニューを提供して、城岱牧場を大沼国定公園以外の目玉コンテンツとして、大沼以外の滞在時間を延ばす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会 ・大沼体験観光づくり実行委員会 ・七飯町物産振興協議会

■第3章－七飯町の観光の諸課題への対策

課題・取り組み	事業メニュー	事業概要	実施主体
①長時間滞在させる魅力ある観光商品の造成と景観等維持管理	3) 牧場カフェ	津軽海峡、函館山、北海道新幹線など絶景を見渡せる城岱牧場で、現行の物販以外にカフェを併設することにより、利用者にゆっくりと贅沢な時間を過ごしてもらい、城岱牧場を大沼国定公園以外の目玉コンテンツとして、大沼以外の滞在時間を延ばす。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会
	4) 観光ガイドの育成	大沼公園の自然の魅力や周辺の観光情報などを案内できる観光ガイドを育成して、常時、観光客を案内できる体制を整え、観光客の滞在化促進、満足度向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯大沼国際観光コンベンション協会
	5) 果物狩りの利用促進	果物狩りについての情報発信が不十分であるほか観光客の受け入れ体制や他地域との差別化などが整っていないため、情報の一元化や発信強化を行い、西洋農業発祥の地として新たな付加価値をつけたメニューを提供する。また、必要な施設整備への支援についても長期的に検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会 ・町内果樹園
	6) グリーンツーリズムの推進	わが町は日本における洋式農法を基盤とした近代農業発祥地としての歴史を持つことから、農業の継続的発展と都市住民のニーズや価値観の変化に対応するとともに、農村における所得向上や就業機会の創出の農村滞在型余暇活動に資するための機能の整備が必要不可欠であるため、体験農園や農家レストラン、農家民宿などの整備促進を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会 ・農業従事者
	7) 湖畔周辺の整備	豊かな水と緑の自然環境がある大沼湖畔で、その魅力を体感していただくために湖畔の木道などを定期的に整備するとともに、湖畔周辺の景観向上のために、ゴミ拾いや立木の伐採など湖畔の清掃活動を定期的に行う。また、長期的には看板デザインなどを検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道 ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会
②宿泊者用のメニュー・プログラムの充実化	1) 宿泊者限定体験メニューの開発	町内に体験メニューは数多くあるものの、その殆どが日中に体験できるもので、早朝もしくは夜の体験メニューは数少ない状況にあるため、七飯町に宿泊する必然性が弱い状況にある。そこで、町内の宿泊施設や体験事業者と連携しながら、宿泊者限定の夜もしくは早朝の体験メニューを開発して、町内の宿泊客数および宿泊客の滞在日数の増加を図る。 例) ・日暮山の早朝雲海ツアー	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会 ・町内宿泊施設

3. 外国人観光客の受入環境の整備に向けた対策

外国人観光客の受入環境の整備については、プロモーションツールとしての活用を視野に入れ、ターゲットとなる国の趣味嗜好に合わせた観光パンフレットおよび観光マップの作成や観光情報サイトの多言語化、主にアジア圏へのメディアを活用したプロモーションの実施のほか、外国人観光客のニーズに沿ったハード等整備促進など、次の事業メニューにより受入体制の拡充を図ってまいります。

課題・取り組み	事業メニュー	事業概要	実施主体
①外国人観光客が活用しやすいツールの作成	1) 多言語表記パンフレットの作成	観光パンフレットおよび観光マップについてターゲットとなる国の趣味嗜好に合わせた内容でそれぞれ作成し、現地での案内およびプロモーションに利用する。また、増加するインバウンドに合わせ対応言語を計画的に増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会
	2) ホームページの多言語化	ホームページを多言語表記するとともにターゲットとなる国の趣味嗜好に合わせて内容を変えて作成し、観光客にとって事前の情報収集や現地での案内に役立つような内容にする。また、北海道全体のインバウンドサイトとの連携を強化しながら、増加するインバウンドに合わせて対応言語を計画的に増やしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会
	3) 会話ツールの作成	多言語指さし会話集を町内の宿泊施設や飲食店、体験事業者が活用しやすい内容で作成、活用し、インバウンドの受け入れを円滑に行えるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会
②外国人観光客のニーズに沿ったハード整備	1) 無料公共無線LAN環境の整備促進	特にアジア圏の外国人観光客に需要のある無料公共無線LAN環境の整備を促進し、外国人観光客の利便性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会 ・事業者 ・その他関係機関
③外国人観光客の受入体制とおもてなしの向上	1) 観光セミナーの開催	現地での受け入れ体制を強化させるために、台湾や中国、韓国、東南アジアなど主要な市場の専門家や観光学に詳しい学識経験者を招き、各国の特徴や最新の情勢などを学び、七飯町のインバウンド誘致や地元での受け入れ体制の充実を産官学連携により推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会 ・北海道大沼国際交流協会 ・学識経験者
④観光プロモーション等、諸外国への情報発信の強化	1) プロモーション（メディアの活用）	台湾や中国、韓国、東南アジアなど主要な市場に対して雑誌やテレビなどのメディアを活用した継続的なプロモーションを行い、海外に対して七飯町の魅力を伝えながら認知度を高め、インバウンドの増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会

4. 通年型観光の促進に向けた対策

当町の持つ四季折々の魅力を活用した観光メニューの開発や掘り起し、磨き上げを行うとともに、新たな活力による既存イベントの活性化や季節毎に特色を持たせた新規イベントの実施を図るなど、次の事業メニューにより施策を進めてまいります。

特に観光閑散期にあたる冬期間の体験メニューの造成については、北海道らしいメニューでありながらも、ここでしか体験できない商品の開発を進めるとともに、こうした商品の情報を積極的に発信し利用促進を図るなど、年間を通した観光メニューの提供による通年型観光を促進します。

課題・取り組み	事業メニュー	事業概要	実施主体
①季節ごとに特色のある魅力的な観光商品の造成と情報発信	1) 冬の体験メニューづくり	観光入込客数の落ち込みが大きい冬に、スノーシューやスノーモービル、ワカサギ釣りなどいくつかの体験メニューを大沼全体で提供しているが、他の北海道地域でも同様の体験が提供されているため差別化を図るのが難しい状況であることから、大沼ならではの冬の観光要素を加えた新たなメニューを事業者と連携しながら開発するとともに、予約窓口を一本化して一体的な情報発信をするなど発信力を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・大沼体験観光づくり実行委員会 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会 ・町内体験事業者
	2) 既存イベントの活性化および新規イベントの実施	既存イベントのマンネリ化や、少子高齢化により地域の担い手の確保が困難となっていることから、近隣や都市圏の幅広い方々を巻き込み、ブラッシュアップや新たな試みにより実施することで、来場者数の増加や活性化を図るとともに、季節毎に特色を持たせた新規イベントの実施を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会
	3) パンフレットの充実、設置（再掲）	関係団体が協議した中で七飯町の統一したブランドコンセプトを定め、そのブランドコンセプトのもと七飯町の魅力をPRする各種パンフレットを発地用および着地用に分けて作成する。町内のみならず函館市内の宿泊施設やレンタカー各社、道内外の情報発信施設など設置個所の充実を図るとともに、担当者との定期的に会議を行い、継続的に情報発信が行われるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会

課題・取り組み	事業メニュー	事業概要	実施主体
①季節ごとに特色のある魅力的な観光商品の造成と情報発信	4) イベントなどのプロモーション (再掲)	平成22年から新幹線沿線地を実施している食と観光のPRイベント「函館・みなみ北海道グルメパーク」を平成27年まで開催するほか、新幹線沿線地のホテルレストランなどで行われている「北海道フェア」や百貨店で行われている「北海道物産展」と連携して継続的に食と観光の魅力を発信し、七飯町の知名度を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会
	5) 情報誌などを活用したブランド発信 (再掲)	七飯町の魅力をより強く発信するために統一的なブランドコンセプトのもと、ターゲットとなる客層に対して有効な情報誌などへの広告に集中的かつ継続的に魅力を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町
	6) サイクルツーリズムの促進	<p>近年のサイクリングブームにより、自転車に乗って自然や景色を楽しむ方々が増えてきており、自然景観が豊かな大沼国定公園周辺においてもサイクリングを楽しむ方が増えていることから、大沼・駒ヶ岳エリアを多くの方々が訪れる全国的なサイクリングスポットとして成長させるため、サイクルツーリズムを推進し、地域経済への寄与拡大を図る。</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な観光施設や飲食店にサイクルスタンドや空気入れ、工具などを設置 ・自転車の預かりサービスを観光案内所等で実施(新幹線利用者にもサイクリングを楽しんでいただく) ・サイクリングを楽しむ方々の拠点となるような、更衣室などを用意したサイクルステーションの設置 ・平成25年から実施している自転車のロングライドイベント「GREAT EARTH 函館大沼ライド」の継続開催および1,000人規模のイベントへ発展 	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会 ・環駒ヶ岳広域観光協議会
②継続的なサービス提供のための担い手の育成	1) 地域のおもてなし向上	<p>他地域で観光振興に取り組んでいる方々や観光学に詳しい学識経験者を講師に招き、観光セミナーを定期的で開催して先行事例を学ぶことで、七飯町の観光関連業者の意欲を高めるとともに、自主自立の観光振興を促す。</p> <p>また、大沼湖水まつりや大沼函館雪と氷の祭典などのイベントや清掃活動などで積極的に協力いただいている地元小中学校と連携して、観光客おもてなしのための活動を一緒に考え、一緒に実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会 ・学識経験者等

5. 観光による経済効果の全町への波及に向けた対策

北海道新幹線開業に伴う経済効果を広く享受するため、観光関連産業をはじめ様々な産業に波及させるための取り組みを行う必要があることから、観光案内所機能強化、観光情報を集約するホームページの整備、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した情報発信等、観光関連産業への支援強化や「はこだて旅するパスポート」の利用促進、観光周遊バスの利用促進など公共交通機関の利用促進による町内周遊促進、JRプランの充実化やグリーンツーリズム、サイクルツーリズムの促進など、大沼エリア・北海道新幹線北口エリア・赤松街道エリアそれぞれの特色を活かし、観光客を相互に周遊させるための仕組みづくりとして、次の事業メニューにより施策を進めてまいります。

課題・取り組み	事業メニュー	事業概要	実施主体
①町内観光施設等の魅力発信による周遊促進	1) 観光案内所の機能強化	大沼公園駅前の観光案内所において、体験メニューのほか、宿泊施設、飲食店などの予約・紹介など、七飯町全体の観光コンシェルジュとしての機能を強化するとともに、周辺地域の観光案内所と連携し、広域的な観光情報の提供体制を整備する。また、城岱牧場に二次的な観光案内所としての機能を持たせ、観光客を七飯町内全体へ周遊させるような取り組みを行う。	・七飯大沼国際観光コンベンション協会
	2) ホームページの整備	七飯大沼国際観光コンベンション協会のホームページに全ての観光情報を集約するほか、体験メニューや宿泊施設などの予約システムを設置し、情報発信力の強化や観光客の利便性を高めるとともに、町全域への周遊を促進する。	・七飯大沼国際観光コンベンション協会
	3) SNSの活用	ホームページ以外に双方向のコミュニケーションを図ることができるSNSツールを活用して積極的な情報交換を行い、国内外における七飯町のファンの増加を図るとともに、町内全域における魅力の発信により、町全域への周遊を促進する。	・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会
	4) 道の駅を拠点とした観光情報の発信（再掲）	北海道新幹線北口エリアに建設予定の道の駅を、北海道新幹線により来道する観光客を迎える第一の観光拠点として位置付けるとともに、観光情報の発信拠点として最大限に活用し、町内各エリアへの周遊を促進する。	・七飯町 ・道の駅
②町内各地における新たな観光商品の造成と既存商品の充実化	1) 観光客アンケート調査	当計画の目標達成のためアンケート調査を実施し、観光コンテンツや飲食店、宿泊施設の満足度、観光消費額などの地域経済への波及効果を確認し、今後の事業展開に活用する。	・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会
	2) 果物狩りの利用促進（再掲）	果物狩りについての情報発信が不十分であるほか観光客の受け入れ体制や他地域との差別化などが整っていないため、情報の一元化や発信強化を行い、西洋農業発祥の地として新たな付加価値をつけたメニューを提供する。また、必要な施設整備への支援についても長期的に検討する。	・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会 ・七飯町物産振興協議会

課題・取り組み	事業メニュー	事業概要	実施主体
②町内各地における新たな観光商品の造成と既存商品の充実化	3) グリーンツーリズムの推進（再掲）	わが町は日本における洋式農法を基盤とした近代農業発祥地としての歴史を持つことから、農業の継続的発展と都市住民のニーズや価値観の変化に対応するとともに、農村における所得向上や就業機会の創出の農村滞在型余暇活動に資するための機能の整備が必要不可欠であるため、体験農園や農家レストラン、農家民宿などの整備促進を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会 ・農業従事者
	4) サイクルツーリズムの促進（再掲）	<p>近年のサイクリングブームにより、自転車に乗って自然や景色を楽しむ方々が増えてきており、自然景観が豊かな大沼国定公園周辺においてもサイクリングを楽しむ方が増えていることから、大沼・駒ヶ岳エリアを多くの方々が訪れる全国的なサイクリングスポットとして成長させるため、サイクルツーリズムを推進し、地域経済への寄与拡大を図る。</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な観光施設や飲食店にサイクルスタンドや空気入れ、工具などを設置 ・自転車の預かりサービスを観光案内所等で実施（新幹線利用者にもサイクリングを楽しんでいただく） ・サイクリングを楽しむ方々の拠点となるような、更衣室などを用意したサイクルステーションの設置 ・平成 25 年から実施している自転車のロングライドイベント「GREAT EARTH 函館大沼ライド」の継続開催および 1,000 人規模のイベントへ発展 	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・七飯大沼国際観光コンベンション協会 ・環駒ヶ岳広域観光協議会
③二次交通の充実化による周遊促進	1) 「はこだて旅するパスポート」の利用促進	平成 24 年から実施している、函館・北斗・七飯・森・鹿部の 5 市町の共通フリー乗車券「はこだて旅するパスポート」の積極的な情報発信や利用促進により、七飯町へのアクセス向上と圏域の滞在促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・北海道新幹線新駅沿線協議会
	2) 観光周遊バスの利用促進	七飯町を巡る観光周遊バスの積極的な情報発信や利用促進により、七飯町へのアクセス向上と圏域の滞在促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・バス事業者
	3) J R プランの充実	新函館北斗駅～J R 大沼公園駅間のアクセス性を活かし、大沼国定公園周辺の体験メニューと J R を組み合わせたパックプランの造成や、季節ごとの観光素材を J R 北海道および J R 東日本などに情報提供することで充実化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・J R 北海道 ・J R 東日本
④北海道新幹線北口エリアの周辺整備と地域の活性化	1) 道の駅を核とした道の駅エリアの周辺整備	北海道新幹線北口エリアが広域交通の結節点である優位性を活かし、現在建設を予定している道の駅の整備に加え、道の駅エリアとして周遊観光の拠点化を推進するため、様々な機能の集約を図るとともに周辺整備を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・七飯町 ・道の駅 ・民間

■第4章—七飯町観光振興計画における目標設定

本計画における各種施策の目標設定について

第3章では、わが町における観光の諸課題を洗い出し、課題毎の事業メニューを記載しましたが、本章では、これらの施策の効果を検証し、必要な修正を行うなどフィードバックするため、本計画の中間年度にあたる平成32年度を目標年度に設定し、各事業メニューの目標の達成を目指し施策を進めてまいります。

1. 町の認知度不足に関する課題への目標設定

課題・取り組み	事業メニュー および基礎数値	現状値	目標年度 および目標値	備考
①観光プロモーションなど魅力の発信による認知度向上	1) イベントなどによるプロモーション ○プロモーション等年間参加数	平成26年度 道内 3回 道外 1回	平成32年度 道内 3回 道外 5回	<ul style="list-style-type: none"> 各種プロモーションへの参加、方法につき関係団体と協議のうえ毎年度検証 北海道体験観光プロモーション、道外ホテルレストランにおける北海道フェアへの参画、道外百貨店における北海道物産展への参加等を想定
	2) 情報誌などを活用したブランド発信 ○情報誌への町観光情報年間掲載数	平成26年度 4回	平成32年度 10回	<ul style="list-style-type: none"> 観光入込客数調査等により毎年度検証 観光情報誌への町観光情報掲載
	3) スポーツ合宿の誘致に伴うプロモーションの実施 ○合宿誘致に伴う受け入れ体制の拡充と実績の発信	—	平成32年度 実施	<ul style="list-style-type: none"> 各年度検証の上、関係各課と協議 観光プロモーション時の実績PRおよび受入時における関係事業者等との連携強化
	4) ラン・ウォークイベントの実施 ○北海道大沼グレートラン・ウォークの参加者数	平成26年度 1,440人	平成32年度 2,000人	<ul style="list-style-type: none"> 参加者アンケートを実施し、各年度検証の上、関係団体と協議 観光プロモーション等における実績PRおよびイベント内容の拡充を検討
	5) 道の駅を拠点とした観光情報の発信 ○観光情報コーナーの設置 ○プロモーションイベントの実施	—	平成32年度 観光情報コーナー運用 プロモーション イベント実施	<ul style="list-style-type: none"> プロモーションイベントの入込数及び町内周辺施設への入込数調査などにより検証
②ツールの魅力向上および効果的な活用	1) パンフレットの充実、設置 ○更新周期 ○渡島管内設置箇所数 ○海外事業所等設置箇所数	平成26年度 更新周期 不定期 渡島管内34箇所 海外事業所7箇所	平成32年度 更新周期 3年毎 渡島管内50箇所 海外事業所10箇所	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査等により毎年度検証 パンフレット掲載内容は毎年度検証の上、概ね3年毎に刷新
	2) 広域連携による情報発信 ○渡島管内各団体と連携した年間情報発信回数	平成26年度 1回	平成32年度 5回	<ul style="list-style-type: none"> 各年度検証の上、関係団体と協議

2. 滞在型観光の促進に向けた目標設定

課題・取り組み	事業メニュー および基礎数値	現状値	目標年度 および目標値	備 考
①長時間滞在 させる魅力あ る観光商品の 造成と景観等 維持管理	1) グルメコンテンツの開 発 ○新規コンテンツ数	—	平成32年度 体験 5事業実施 その他 5事業実施	・アンケートを実施し、各年度検証 の上、関係事業者と協議
	2) 牧場での体験メニュー づくり ○新規コンテンツ数	—	平成32年度 新規3事業実施	・アンケートを実施し、各年度検証 の上、関係事業者と協議
	3) 牧場カフェ ○新規事業実施	—	平成32年度 新規事業実施	・アンケートを実施し、各年度検証 の上、関係事業者と協議
	4) 観光ガイドの育成 ○ガイド育成状況 ○ガイドメニュー数	平成26年度 3名育成中 2メニュー実施	平成32年度 3名育成完了 10メニュー実施	・アンケートを実施し、各年度検証 の上、新規メニューの開発を検討
	5) 果物狩りの利用促進 ○情報の一元化実施 ○新規コンテンツ数 ○施設整備の検討および実 施	—	平成32年度 情報一元化実施 新規2事業実施 随時整備	・アンケートを実施し、各年度検証 の上、関係事業者と協議
	6) グリーンツーリズムの 推進 ○農村滞在型余暇活動機能 整備計画改正 ○施設整備の検討および実 施	—	平成32年度 計画改正 随時整備	・観光入込客数調査の観光地点に体 験農業等を調査対象に追加の上、 毎年度検証 ・アンケートを実施し、毎年度検証 の上、関係事業者と協議
	7) 湖畔周辺の整備 ○湖畔周辺の施設整備数	—	平成32年度 木道等2箇所整備 整備箇所の継続検討	・アンケートを実施し、毎年度検証 の上、関係する機関、団体等と整 備を検討
②宿泊者用の メニュー・プロ グラムの充実 化	1) 宿泊者限定体験メニュ ーの開発 ○新規コンテンツ数 ○宿泊客数	平成26年度 宿泊客数 86,000人	平成32年度 新規5事業実施 宿泊客数 100,000人	・観光入込客数調査等により毎年度 検証 ・アンケートを実施し、各年度検証 の上、関係事業者と協議

■第4章ー七飯町観光振興計画における目標設定

3. 外国人観光客の受入環境の整備に向けた目標設定

課題・取り組み	事業メニュー および基礎数値	現状値	目標年度 および目標値	備 考
①外国人観光客が活用しやすいツールの作成	1) 多言語表記パンフレットの作成 ○パンフレットの対応外国語数 ○更新周期 ○海外事業所等設置箇所数	平成26年度 対応外国語3言語 更新周期 不定期 海外事業所7箇所	平成32年度 対応外国語5言語 更新周期 3年毎 海外事業所10箇所	・アンケート調査等により毎年度検証 ・パンフレット掲載内容は毎年度検証の上、概ね3年毎に刷新
	2) ホームページの多言語化 ○観光情報HPの対応外国語数 ○外国人宿泊客数	平成26年度 対応外国語0言語 外国人宿泊客数 12,000人	平成32年度 対応外国語4言語 外国人宿泊客数 23,000人	・観光入込客数調査等により毎年度検証
	3) 会話ツールの作成 ○会話ツール対応外国語数	—	平成32年度 対応外国語4言語	・各年度検証の上、関係団体、事業者等と協議
②外国人観光客のニーズに沿ったハード整備	1) 無料公共無線LAN環境の整備促進 ○大沼公園周辺における無料公共無線LAN環境整備箇所数	平成26年度 6箇所	平成32年度 15箇所	・各年度検証の上、関係団体、事業者等と協議
③外国人観光客の受入体制とおもてなしの向上	1) 観光セミナーの開催 ○外国人観光セミナー開催回数	—	平成32年度 1回/年間	・各年度検証の上、関係団体、事業者等と協議
④観光プロモーション等、諸外国への情報発信の強化	1) プロモーション(メディアの活用) ○雑誌やテレビ等のメディアを活用した海外への情報発信回数	—	平成32年度 3回/年間	・各年度検証の上、関係団体等と協議

4. 通年型観光の促進に向けた目標設定

課題・取り組み	事業メニュー および基礎数値	現状値	目標年度 および目標値	備 考
①季節ごとに特色のある魅力的な観光商品の造成と情報発信	1) 冬の体験メニューづくり ○新規コンテンツ数	平成26年度 1事業実施	平成32年度 新規3事業実施	・アンケートを実施し、各年度検証の上、関係事業者と協議
	2) 既存イベントの活性化および新規イベントの実施 ○『大沼湖水まつり』および『大沼函館雪と氷の祭典』における来場者数 ○新規イベントの実施	平成26年度 大沼湖水まつり 15,000人 大沼函館雪と氷の祭典 30,000人	平成32年度 大沼湖水まつり 30,000人 大沼函館雪と氷の祭典 50,000人 新規イベント 春・夏各1回実施	・各年度検証の上、関係団体、事業者等と協議
	3) パンフレットの充実、設置（再掲） ○更新周期 ○渡島管内設置箇所数 ○海外事業所等設置箇所数	平成26年度 更新周期 不定期 渡島管内34箇所 海外事業所7箇所	平成32年度 更新周期 3年毎 渡島管内50箇所 海外事業所10箇所	・アンケート調査等により毎年度検証 ・パンフレット掲載内容は毎年度検証の上、概ね3年毎に刷新
	4) イベントなどによるプロモーション（再掲） ○プロモーション等年間参加数	平成26年度 道内 3回 道外 1回	平成32年度 道内 3回 道外 5回	・各種プロモーションへの参加、方法につき関係団体と協議のうえ毎年度検証 ・北海道体験観光プロモーション、道外ホテルレストランにおける北海道フェアへの参画、道外百貨店における北海道物産展への参加等を想定
	5) 情報誌などを活用したブランド発信（再掲） ○情報誌への町観光情報年間掲載数	平成26年度 4回	平成32年度 10回	・各年度検証の上、関係団体等と協議
	6) サイクルツーリズムの促進 ○GREAT EARTH 函館大沼ライド参加者数 ○サイクルステーションの設置	平成26年度 220人 0箇所	平成32年度 1,000人 2箇所	・各年度検証の上、イベント内容やサイクリングモデルコースの整備等につき関係団体、事業者等と協議
②継続的なサービス提供のための担い手の育成	1) 地域のおもてなし向上 ○観光セミナー開催回数	平成26年度 1回/年	平成32年度 2回/年間	・各年度検証の上、関係団体、事業者等と協議

■第4章一七飯町観光振興計画における目標設定

5. 観光による経済効果の全町への波及に向けた目標設定

課題・取り組み	事業メニュー および基礎数値	現状値	目標年度 および目標値	備考
①町内観光施設等の魅力発信による周遊促進	1) 観光案内所の機能強化 ○コンシェルジュの整備状況 ○対応外国語数 ○大沼国際交流プラザ利用者数	平成26年度 整備検討 3言語対応 53,000人/年間	平成32年度 整備完了 3言語対応 60,000人/年間	・アンケートを実施し、各年度検証の上、関係団体と協議
	2) ホームページの整備 ○観光ホームページの整備状況	—	平成32年度 整備済	・アンケートを実施し、各年度検証の上、関係団体と協議
	3) SNSの活用 ○SNSによる情報発信状況	平成26年度 Facebookおよび twitterによる情報 発信	平成32年度 Facebookおよび Twitterによる情報 発信継続	・アンケートを実施し、発信情報の改善を検討
	4) 道の駅を拠点とした観光情報の発信（再掲） ○観光情報コーナーの設置 ○プロモーションイベントの実施	—	平成32年度 観光情報コーナー運用 プロモーション イベント実施	・プロモーションイベントの入込数及び町内周辺施設への入込数調査などにより検証
②町内各地における新たな観光商品の造成と既存商品の充実化	1) 観光客アンケート調査 ○アンケート調査実施回数	—	平成32年度 2回/年	・アンケート調査内容等につき関係団体と連携、協議の上、定期的実施する
	2) 果物狩りの利用促進（再掲） ○情報の一元化実施 ○新規コンテンツ数 ○施設整備の検討および実施	—	平成32年度 情報一元化実施 新規2事業実施 随時整備	・アンケートを実施し、各年度検証の上、関係事業者と協議
	3) グリーンツーリズムの推進（再掲） ○農村滞在型余暇活動機能整備計画改正 ○施設整備の検討および実施	—	平成32年度 計画改正 随時整備	・観光入込客数調査の観光地点に体験農園等を調査対象に追加の上、毎年度検証 ・アンケートを実施し、毎年度検証の上、関係事業者と協議
	4) サイクルツーリズムの促進（再掲） ○GREAT EARTH 函館大沼ライド参加者数 ○サイクルステーションの設置	平成26年度 220人 0箇所	平成32年度 1,000人 2箇所	・各年度検証の上、イベント内容やサイクリングモデルコースの整備等につき関係団体、事業者等と協議

課題・取り組み	事業メニュー および基礎数値	現状値	目標年度 および目標値	備 考
③二次交通の充実化による周遊促進	1) 「はこだて旅するパスポート」の利用促進 ○「はこだて旅するパスポート」利用者数	平成26年度 1,200人/年間	平成32年度 2,500人/年間	・アンケートを実施し、各年度検証の上、関係団体と協議
	2) 観光周遊バスの利用促進 ○バス事業者等への観光情報発信	—	平成32年度 12回/年	・発信情報等につきバス事業者と連携し、毎年度協議
	3) JRプランの充実 ○JR北海道への観光情報発信	—	平成32年度 12回/年	・発信情報等につきJR北海道やJR東日本と連携し、毎年度協議
④北海道新幹線北口エリアの周辺整備と地域の活性化	1) 道の駅を核とした道の駅エリアの周辺整備 ○道の駅エリアにおける民間活力の導入	—	平成32年度 1件	・民間活力を導入した道の駅エリアの機能集約を図るため、連携する企業の誘致を行うとともに周辺のインフラなど必要な環境整備を行う



西洋りんご発祥の地・七飯町



GREAT EARTH 函館大沼ライド



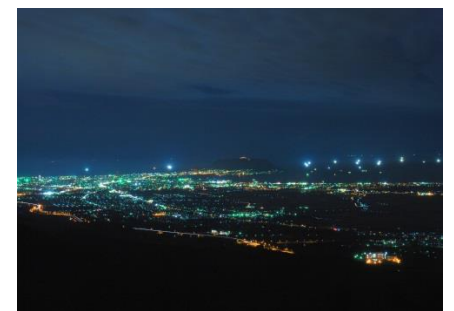
城岱牧場からの風景



大沼黒毛和牛



駒ヶ岳を背景にカヌーで集合写真



城岱スカイラインからの七つ星夜景